

四日市市受託研究

# 四日市市における外国籍市民の 社会参加に関する研究報告書

四日市市受託研究

四日市市における外国籍市民の社会参加に関する研究報告書

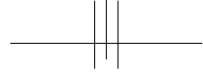


2024年3月

東京大学地域未来社会連携研究機構



東京大学地域未来社会連携研究機構



## はしがき

東京大学地域未来社会連携研究機構（以下、地域未来機構）は、2018年4月1日に東京大学の正式な組織として設置された。地域の課題解決に関わる東大内の11の部局が連携することで、地域の未来に関わる研究・地域連携・人材育成の3局面で、相乗効果を発揮することを目的としている。

2018年11月に三重県と東京大学が包括的な連携協定を結んだことを受けて、地域未来機構では、2019年2月に近鉄四日市駅に近い「ユマニテクプラザ」内に三重サテライトを開設した。そうしたなかで、2019年10月24日には、四日市市と地域未来機構とが連携協定を締結する運びになった。

地域未来機構と四日市市との連携協定書には、連携、協力する事項として、「地域の政策課題研究に関わること」が掲げられている。これに基づき、2019年度から2022年度にかけて、4回の政策課題研究を受託してきた。受託研究の5回目となる2023年度は、「四日市市における外国籍市民の社会参加に関する研究」をテーマに、四日市市在住の外国籍市民にアンケート調査を行い、実態から政策的な課題を明らかにすることを目指した。四日市市は、全国に先駆けて多文化共生施策に取り組み、現在は、2022年3月改訂の「四日市市多文化共生推進プラン」に基づき、多文化共生のまちづくりを進めている。多文化共生の推進を図り、様々な施策・取り組みの充実を図っている分、実際に外国籍市民がどのくらい社会参加を果たしているのかを把握することは、今後の施策を検討するうえでも重要である。本報告書が、今後の四日市市の多文化共生の発展に向けた基礎資料として活用されることを期待したい。

本報告書は、三重サテライト特任助教の土田千愛が担当した。

最後に、アンケート調査票の印刷・配布・回収にご協力いただいた株式会社東京商工リサーチ四日市支店、アンケート調査票の翻訳にご協力いただいた株式会社翻訳センター、また、受託研究全体の進め方についてアドバイスをいただいた四日市市政策推進部政策推進課、四日市市市民生活部市民生活課多文化共生推進室、そして、本調査にご協力いただいた四日市市在住の外国籍市民の皆様に、深謝申し上げます。

2024年3月

東京大学地域未来社会連携研究機構長（代理）鎌倉夏来

## 目次

|  |    |
|--|----|
| はしがき .....                                       | 1  |
| 第1章 本調査の目的と調査概要 .....                            | 3  |
| 第2章 アンケート調査結果(1) 設問別の調査結果 .....                  | 6  |
| A. 基本情報 .....                                    | 6  |
| B. 日本語について .....                                 | 10 |
| C. 地域活動への参加について .....                            | 12 |
| D. 住んでいる地域・人との関係について .....                       | 17 |
| E. 定住について .....                                  | 21 |
| 第3章 アンケート調査結果(2) 留学生の日本語能力と社会参加に関する調査結果 .....    | 22 |
| B. 日本語について .....                                 | 22 |
| C. 地域活動への参加について .....                            | 24 |
| E. 定住について .....                                  | 29 |
| 第4章 アンケート調査結果(3) 外国籍市民の社会参加に関する笹川地区と他地区の比較 ..... | 30 |
| B. 日本語について .....                                 | 30 |
| C. 地域活動への参加について .....                            | 30 |
| 第5章 アンケート調査結果(4) 外国籍市民の社会参加に関する地区別の調査結果 .....    | 34 |
| B. 日本語について .....                                 | 35 |
| C. 地域活動への参加について .....                            | 36 |
| おわりに .....                                       | 42 |
| アンケート調査票 .....                                   | 44 |
| 謝辞 .....   | 48 |

## 第1章 本調査の目的と調査概要

日本政府は、血統主義に基づき、日系人の法的地位の安定化を図るために、1989年に「出入国管理及び難民認定法」を改正し、翌年から施行した。これにより、製造業が盛んな四日市市では、ブラジルを中心に南米諸国からの移住者が急増した。リーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症などによる影響を受け、一時期は人数が減少したものの、四日市市には、2023年12月の時点で11,983人の外国籍市民が暮らしている<sup>1</sup>。

かつて、四日市市では、県営・市営住宅、UR賃貸住宅が立ち並び、主に、日系ブラジル人などが集住している笹川地区を「多文化共生モデル地区」と位置付け、地域の多文化共生に力を入れていた。しかし、近年は、外国籍市民の分散化も見られるようになり、2022年3月に「四日市市多文化共生推進プラン」を改訂してからは、四日市市全域で多文化共生の推進に取り組んでいる。外国籍市民が地域社会の構成員となるためには、地域の施策・取り組みの恩恵を享受し、社会参加を果たす必要がある。

今年度は、『四日市市多文化共生推進プラン』の将来的な改訂に向けて政策提言を行って欲しい」という四日市市からの依頼を受け、四日市市と交渉を重ねた結果、「四日市市における外国籍市民の社会参加」をテーマに研究に取り組むことにした。具体的には、四日市市在住の外国籍市民に対してアンケート調査を行い、外国籍市民の地域活動への参加と地域に居住する日本人との関わりという側面から社会参加の状況を把握し、政策的な課題を見出すことを目的としている。調査は、学内の研究倫理審査(2023年10月17日承認)を経て実施した。調査概要は、次の通りである。

### (1) 調査期間

2023年11月20日～12月20日

### (2) 調査対象

四日市市在住の18歳以上の外国籍市民3,600人(無作為抽出)

### (3) 調査方法

郵送による配付・返信用封筒による回収方式

### (4) アンケート調査票の言語

「やさしい日本語」版(全員)

該当する場合に、外国語版(ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、ネパール語、英語、タガログ語(フィリピン語)、中国語(簡体字)のいずれか)も同封

<sup>1</sup> 外国人、外国籍者など様々な呼び方があるが、本報告書では「外国籍市民」と称する。  
三重県「外国人住民国籍・地域別人口調査(令和5年12月31日現在)の結果」  
<https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0011500450.htm?fbclid=IwAR1d013NE8IYJ5oMcDFQWohTlIkv2rp7EoNX1AFc-15nq5trP9ryelO5505E>  
(2024年2月29日最終アクセス)

調査対象者には、依頼文(「やさしい日本語」で表記)とアンケート調査票を配布した。依頼文では、研究目的と研究への参加は完全に調査対象者の自由意思に基づくものであることを明記し、同意する場合にのみ回答することができること、また、研究に協力しないことで不利益を被ることがないこと、回答後に同意を撤回することもできることを説明した。さらに、個人情報保護の観点から、アンケート調査票に符号(一連番号)を印字することで、回収されたアンケート調査票から個人が特定されないようにした。また、アンケート調査票は、「やさしい日本語」版に加え、四日市市多文化共生推進室の施策と同様に、主要 7 外国語版も用意し、いずれかの外国語を母語とする調査対象者には当該外国語版も同封し、いずれか一方を選択し回答できるような措置をとった。

アンケート調査票の翻訳は、株式会社翻訳センターに発注した。また、アンケート調査票の印刷・配布・回収は、学内担当部署での入札を経て、株式会社東京商工リサーチ四日市支店に発注した。データ分析と考察は、三重サテライト特任助教の土田千愛が行った。なお、調査協力者のデータ抽出は、2023 年 10 月 27 日の業務終了後に、四日市市が行った。このとき、四日市市の外国籍市民総数から各地区の外国籍市民が占める割合に応じて各地区の調査対象者数を決定したものの、国籍、在留資格、年齢、性別などの要素は一切考慮せず、データは無作為に抽出された。

調査対象者の①符号(一連番号)、②郵便番号、③国籍、④在留資格に関する情報は、別途、四日市市から提供を受けた。このうち、③国籍と④在留資格については、アンケート調査票でも設問を設けているが、例えば、④在留資格を尋ねる設問には、「技能」と「技能実習」、「永住者」と「永住者の配偶者」等、紛らわしい選択肢が含まれているため、住民基本台帳上の情報と異なる回答があった場合は誤回答の可能性が高いと判断し、住民基本台帳上の情報を分析に使用することにした。一方、③国籍と④在留資格がいずれも住民基本台帳に記載されている情報と異なる場合は、回答の情報を使用することにした。

参考までに、2023 年 10 月 31 日時点で、四日市市には、73 ヶ国から 11,876 人の外国籍市民が居住していた<sup>2</sup>。地区別の外国籍市民数と四日市市の外国籍市民総数のうち各地区の外国籍市民が占める割合は、表 1. の通りである。

四日市市在住の 18 歳以上の外国籍市民 3,600 人を対象にアンケート調査を行ったところ、有効回答数は 752 件で、回答率は 20.9%だった<sup>3</sup>。四日市市が過去に実施した調査と比べると、有効回答数は過去最多であり、回答率は同程度である。

次章以降では調査結果を示す。第 2 章では、全体の調査結果を提示する。第 3 章では、「留学」の在留資格を持つ外国籍市民に特化して、社会参加に関する調査結果を示す。第 4 章では、外国籍市民の社会参加の実態について、笹川地区とそれ以外の地区の調査結果を比較する。第 5 章では、外国籍市民の社会参加の実態について、地区別の特徴を示す。最後に、各調査結果から導き出された課題をもとに、今後の四日市市の多文化共生の発展に向け、政策を提言する。

---

<sup>2</sup> 四日市市多文化共生推進室提供情報(電子メールにて回答、2024 年 2 月 7 日受信)。

<sup>3</sup> ただし、うち 1 件は、回収時に調査票から符号(一連番号)が切り取られており、郵便番号が不明だった。そのため、居住地区の情報が関係する分析には含めていないことをあらかじめ断っておく。

表1. 四日市市における地区別の外国籍市民数とその割合(2023年10月31日時点)

| 地区名 | 外国籍市民数(人) | 外国籍市民総数のうち<br>各地区の外国籍市民が<br>占める割合(%) |
|-----|-----------|--------------------------------------|
| 中部  | 1,719     | 14.5                                 |
| 富洲原 | 268       | 2.3                                  |
| 富田  | 390       | 3.3                                  |
| 羽津  | 496       | 4.2                                  |
| 常磐  | 1,241     | 10.4                                 |
| 日永  | 649       | 5.5                                  |
| 四郷  | 2,085     | 17.6                                 |
| 内部  | 533       | 4.5                                  |
| 塩浜  | 350       | 2.9                                  |
| 小山田 | 174       | 1.5                                  |
| 川島  | 147       | 1.2                                  |
| 神前  | 109       | 0.9                                  |
| 桜   | 172       | 1.4                                  |
| 三重  | 486       | 4.1                                  |
| 県   | 135       | 1.1                                  |
| 八郷  | 299       | 2.5                                  |
| 下野  | 271       | 2.3                                  |
| 大矢知 | 644       | 5.4                                  |
| 河原田 | 257       | 2.2                                  |
| 水沢  | 43        | 0.4                                  |
| 保々  | 261       | 2.2                                  |
| 海蔵  | 299       | 2.5                                  |
| 橋北  | 214       | 1.8                                  |
| 楠   | 634       | 5.3                                  |
| 計   | 11,876    | 100                                  |

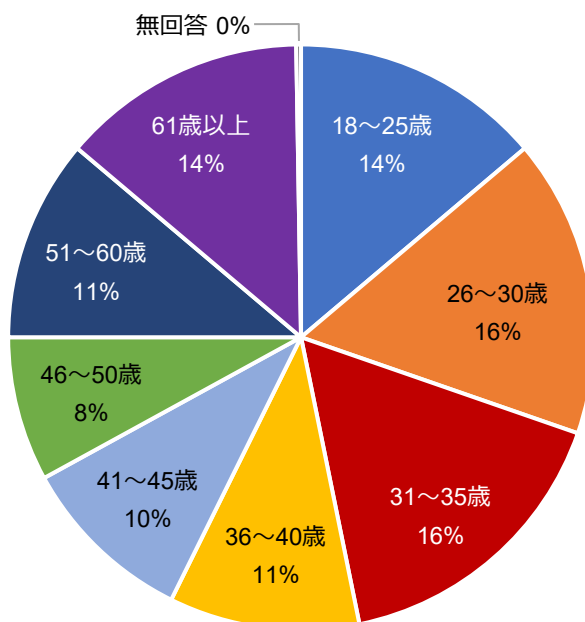
出典:四日市市の資料をもとに筆者作成。



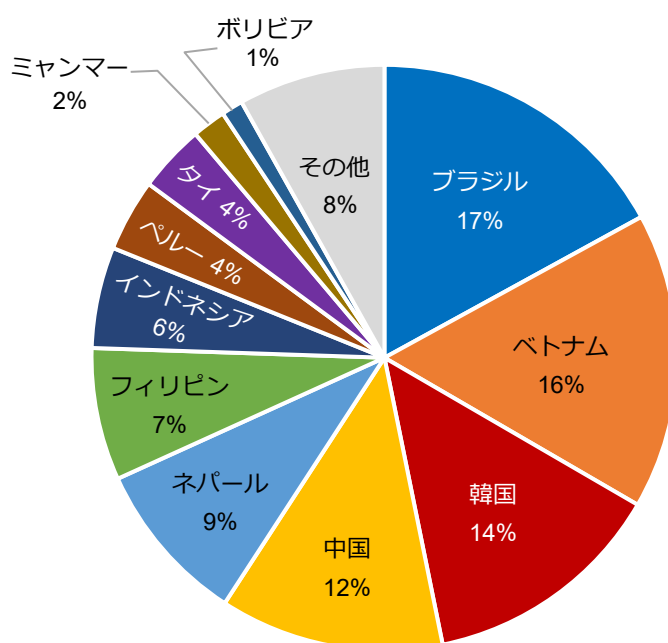
## 第2章 アンケート調査結果(1) 設問別の調査結果

### A. 基本情報

1. あなたは何歳ですか？(n=752)

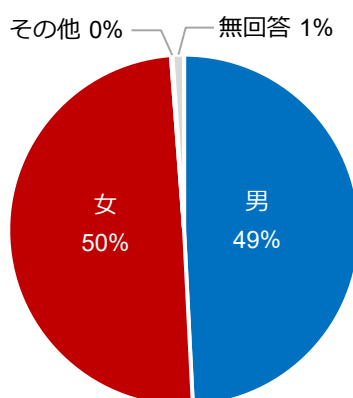


2. あなたの国籍はどれですか？(n=752)

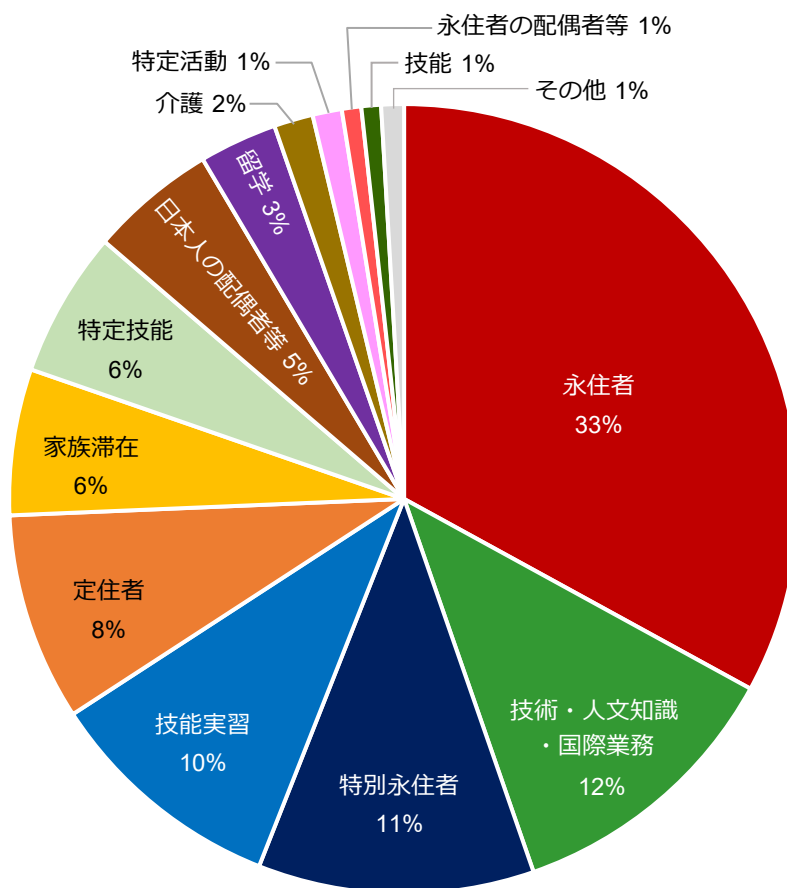




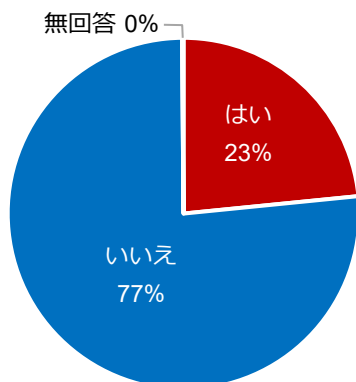
3. あなたの性別はどれですか？(n=752)



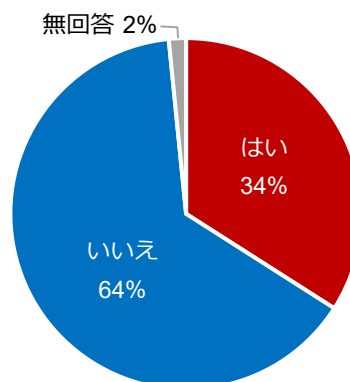
4. あなたの在留資格(VISA)はどれですか？(n=752)



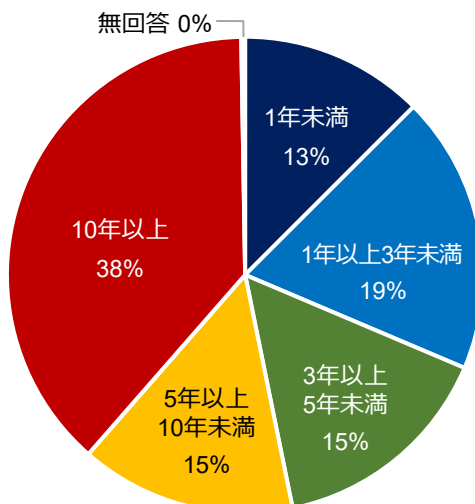
5. あなたは一人で生活していますか？  
(n=752)



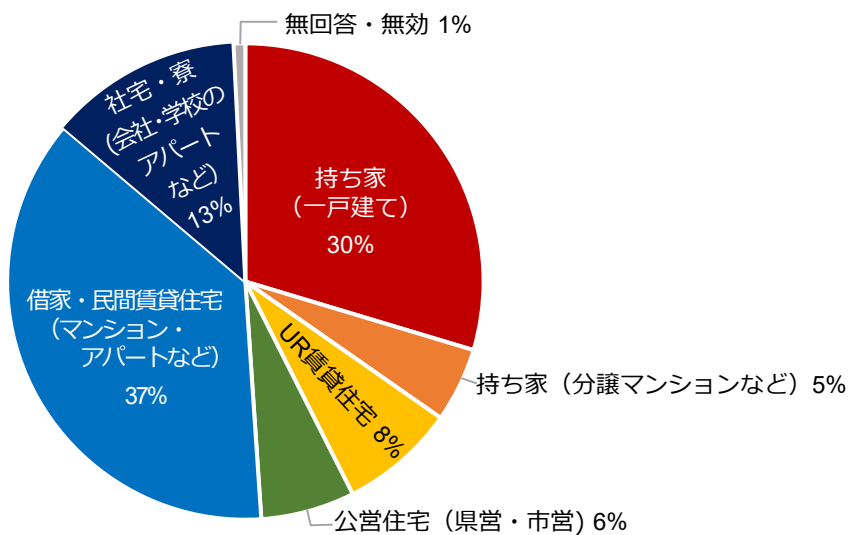
6. あなたには日本で教育を受けている子ども  
(0～18歳)はいますか？(n=752)



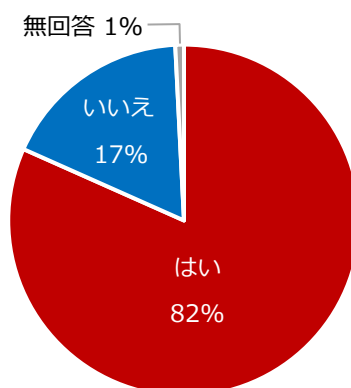
7. あなたはどのくらい四日市市で生活していますか？(n=752)



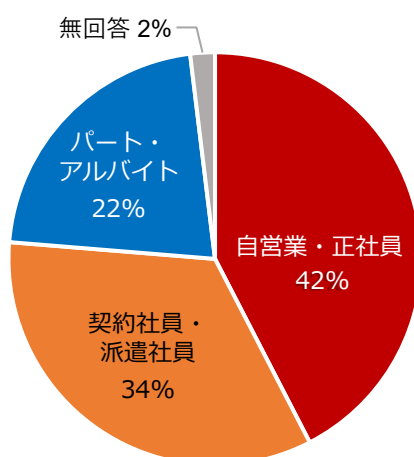
8. あなたが住んでいる家はどれですか？(n=752)



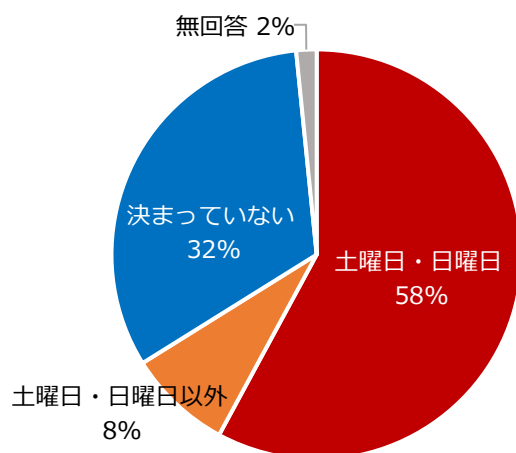
9. あなたは働いていますか？(パート・アルバイトを含む) (n=752)



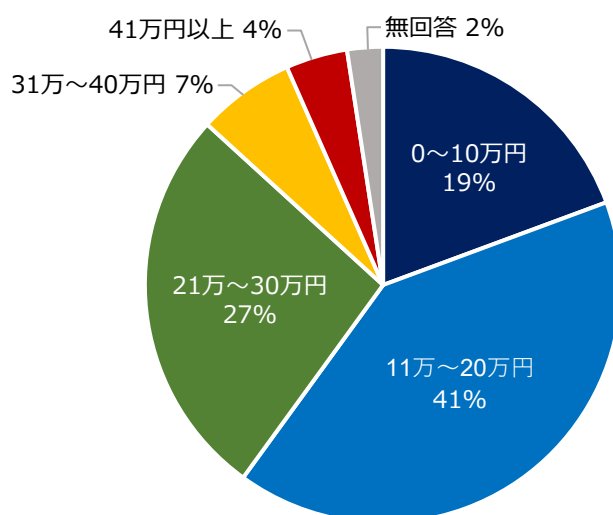
10. 【働いている人だけに聞きます】あなたの会社での立場はどれですか？ (n=752)



11. 【働いている人だけに聞きます】あなたの休みの日はいつですか？ (n=752)

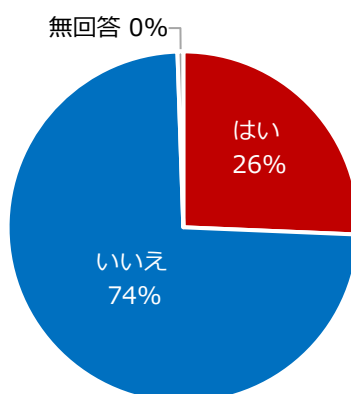


12. 【働いている人だけに聞きます】あなたは月に給料をどのくらいもらいますか？ (n=752)

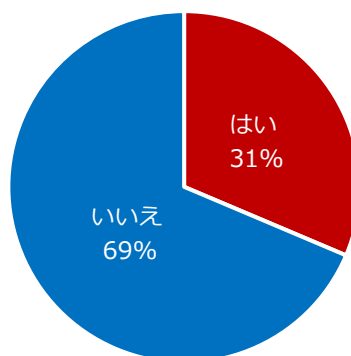


**B. 日本語について**

13. あなたは、地域の日本語教室に参加していますか(参加したことがありますか)？ (n=752)

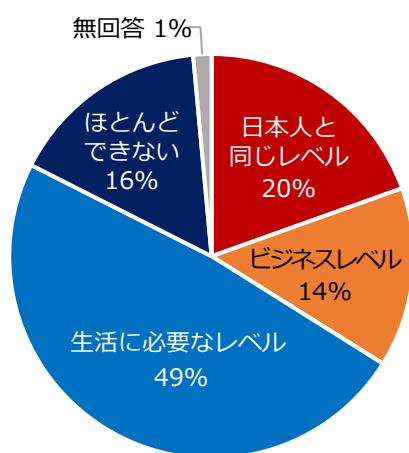


【補足】問14. ~17. でいずれも「ほとんどできない」と答えた人の問13. の回答 (n=51)

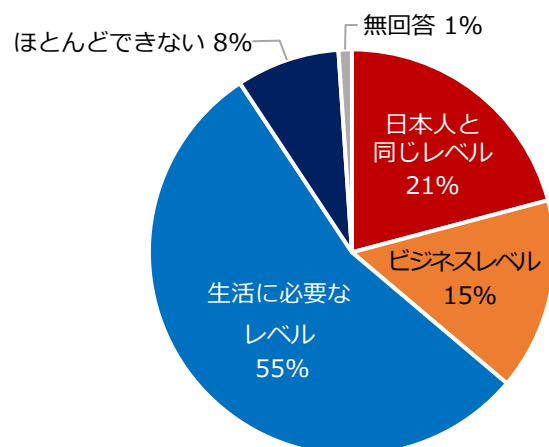


問13. と【補足】より、日本語能力が低い人は地域の日本語教室への参加率がやや高いものの、日本語能力が低い人が地域の日本語教室への参加率が著しく高いということは確認されなかった。

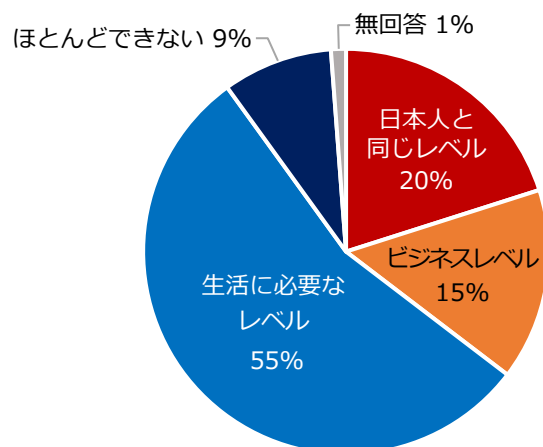
14. あなたは、どのくらい日本語を読むことができますか？ (n=752)



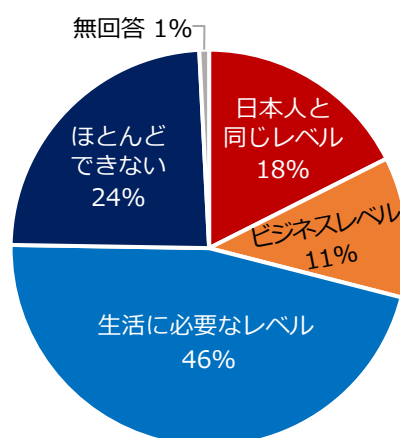
15. あなたは、どのくらい日本語を聞いて理解することができますか？ (n=752)



16. あなたは、どのくらい日本語を話すことができますか？ (n=752)



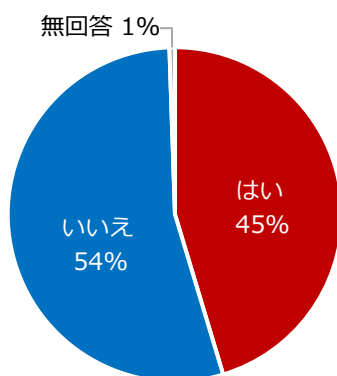
17. あなたは、どのくらい日本語を書けることができますか？ (n=752)



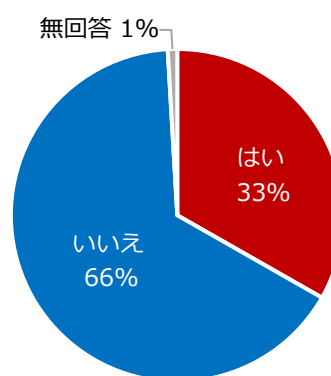
日本語能力について尋ねた問14.～17.の結果を、四日市市が2021年3月に実施した外国籍市民に対する「多文化共生に関する市民意識調査」(以下、「2021年調査」と略称)の結果と比較すると、各選択肢の問い方は異なるものの、今回の調査では、全体的に「ほとんどできない」と回答した人の割合が高かった。しかしながら、それぞれの能力を高い順に並べると、「2021年調査」と同様に、「聞く」>「話す」>「読む」>「書く」となった。

C. 地域活動への参加について

18. あなたは自治会を知っていますか？ (n=752)

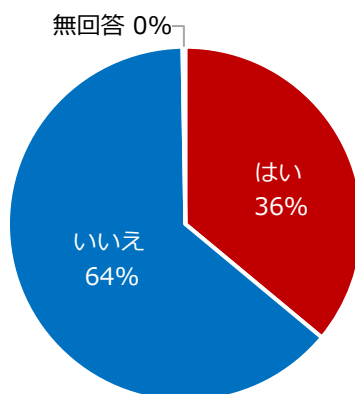


19. あなたは自治会に入っていますか？ (n=752)

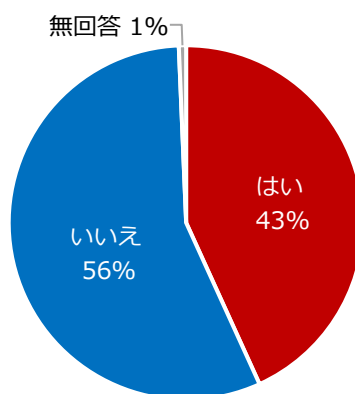


自治会加入率が46%だった「2021年調査」と比べると、今回の調査の方が、自治会加入率が低かった。

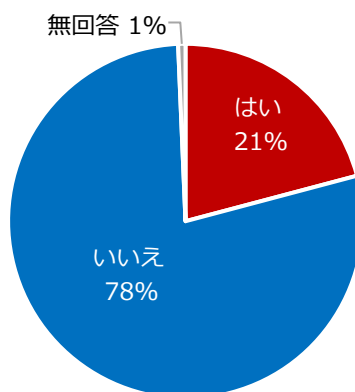
20. あなたは、あなたが住んでいる地域の行事(まつり、スポーツ大会など)に参加していますか(参加したことがありますか)? (n=752)



21. あなたは、あなたが住んでいる地域の清掃活動(ごみ拾いなど)に参加していますか(参加したことがありますか)? (n=752)

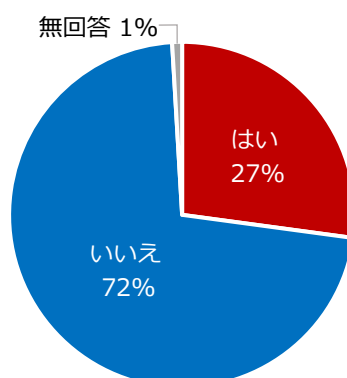


22. あなたは、あなたが住んでいる地域の防犯・交通安全活動(子どもの見守り、防犯パトロールなど)に参加していますか(参加したことがありますか)? (n=752)

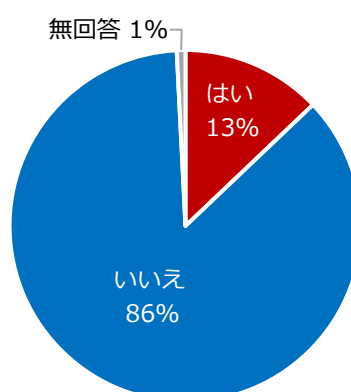




23. あなたは、あなたが住んでいる地域の防災訓練に参加していますか（参加したことがありますか）？（n=752）



24. あなたは、あなたが住んでいる地域の地区市民センター、四日市市多文化共生サロン（四郷地区の場合）などの活動（講座など）に参加していますか（参加したことがありますか）？（n=752）

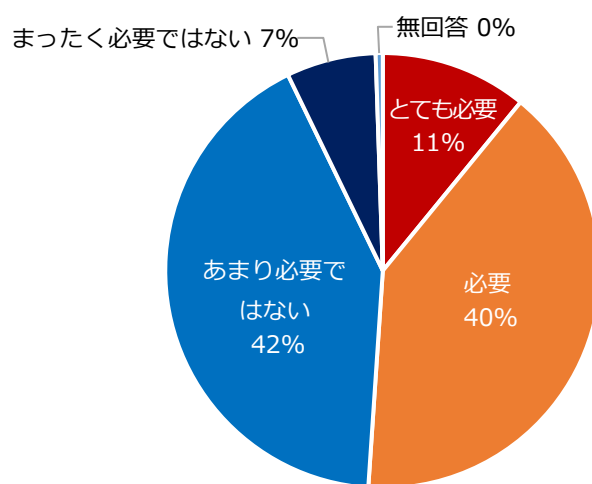


「2021年調査」では、「あなたは、お祭り、清掃活動や防災訓練などの地域の行事に参加していますか」という設問を設けていたが、今回の調査では、問20.～24.で地域の活動・行事の項目を細分化して尋ねてみた。地域の活動・行事への参加率を高い順に並べると、「清掃活動」>「地域の行事」>「防災訓練」>「防犯・交通安全活動」>「地区市民センターなどでの活動」の順となった。つまり、日常生活に関連する清掃活動への参加率が最も高く、気軽に参加しやすい地域の行事がそれに続く結果となった。なお、生涯教育施設は、本来、国籍にかかわらず住民の誰もが利用でき、日本人と外国籍市民が出会い、地域の多文化共生の発展を促進し、「安心の居場所」となることが期待されている場所であるが、調査結果より、四日市市では、外国籍市民が地区市民センターでの活動に参加するハードルは高いと言える<sup>4</sup>。

<sup>4</sup> 土田千愛(2019)「多文化社会における公民館の役割—難民申請者と地域住民の交流—埼玉県川口市の住民の取り組みを事例に」渡辺幸倫編『多文化社会の社会教育—公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」』明石書店、70-71頁。

また、50.4%が「参加している」あるいは「たまに参加している」と回答した「2021年調査」と比べると、今回の調査では、いずれの設問においても「参加している(参加したことがある)」と回答した人の割合は半数を下回っており、低い結果となった。2022年3月改訂の「四日市市多文化共生推進プラン」では、地域の行事への参加率を60.0%とすることを目標に掲げているため、これを達成するためには、地域の活動・行事への参加率の向上に向け、さらに力を入れる必要がある。

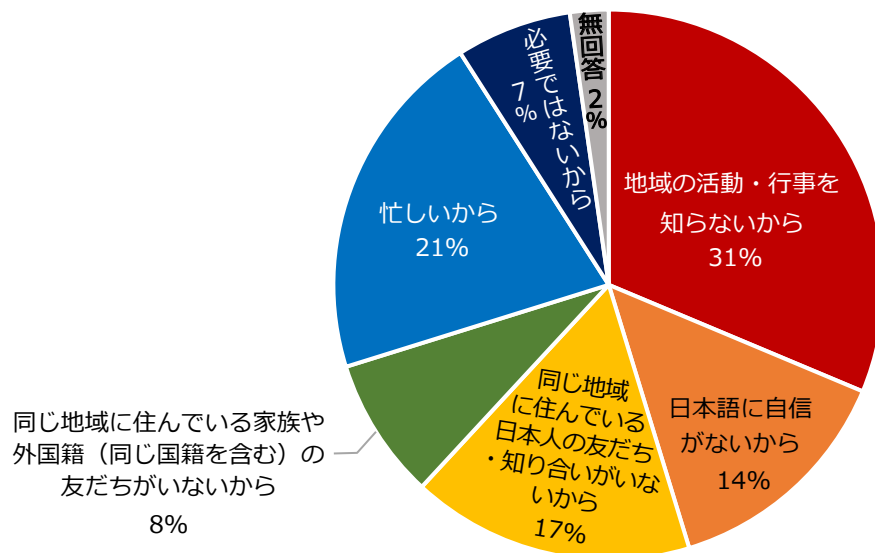
25. あなたが生活していくために、地域の活動・行事に参加することは必要ですか？(n=752)



問25. より、外国籍市民の約半数が地域の活動・行事に参加することの必要性を感じている一方で、残り約半数は必要性を感じていないことが分かる。前者の割合を高めるためには、なぜ地域の活動・行事に参加することが必要かを啓発していく必要がある。

26. 【20.～24. がすべて「(2)いいえ」の人だけに聞きます】参加しない理由はどれですか？

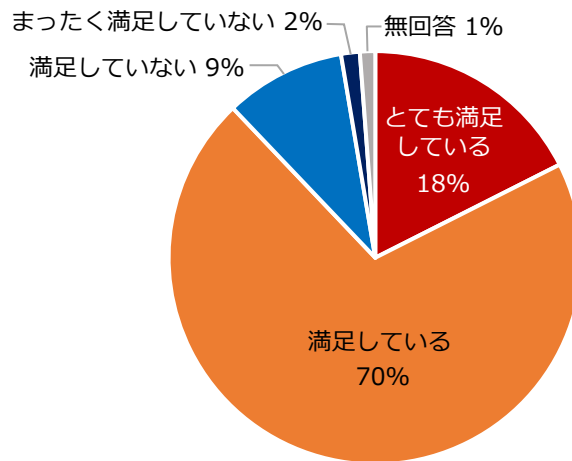
(〇はいくつでも) (n=304)



問26. より、日本語能力は、地域の活動・行事への参加において、それほど障壁になっていないことが分かる。全体の約 3 分の 1 を占める「地域の活動・行事を知らないから」については、地域の活動・行事の認知度を高めることで解消されると思われる。また、全体の約 4 分の 1 が「同じ地域に住んでいる日本人の友だち・知り合いがいないから」あるいは「同じ地域に住んでいる家族や外国籍（同じ国籍を含む）の友だちがいないから」と回答していることから、一緒に参加する仲間（特に日本人）が地域にいれば、外国籍市民の地域の活動・行事への参加率が向上すると考えられる。

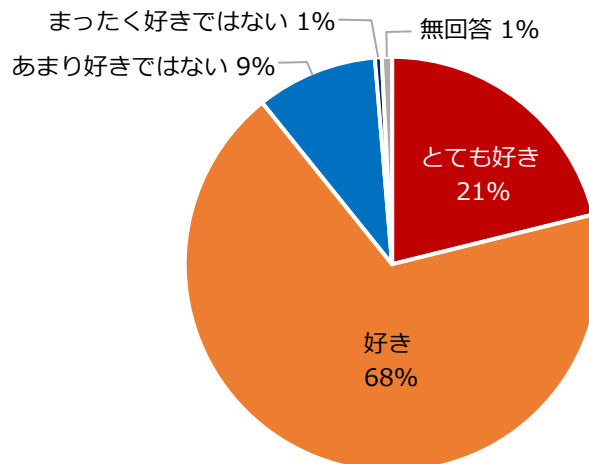
D. 住んでいる地域・人との関係について

27. あなたは、あなたの住んでいる地域での生活に満足していますか？ (n=752)



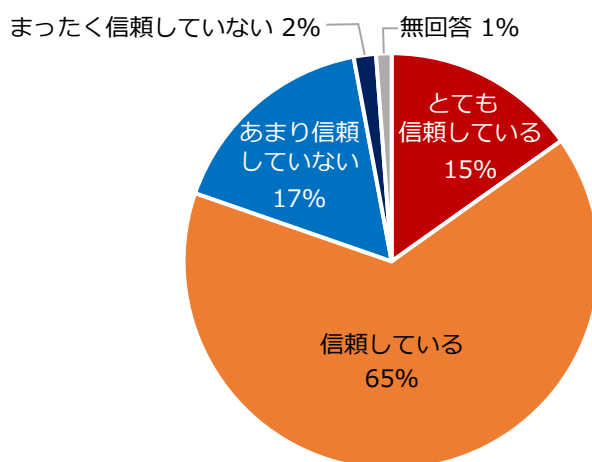
問27. より、外国籍市民の約 9 割が住んでいる地域での生活に満足していることが分かる。

28. あなたは、あなたの住んでいる地域が好きですか？ (n=752)



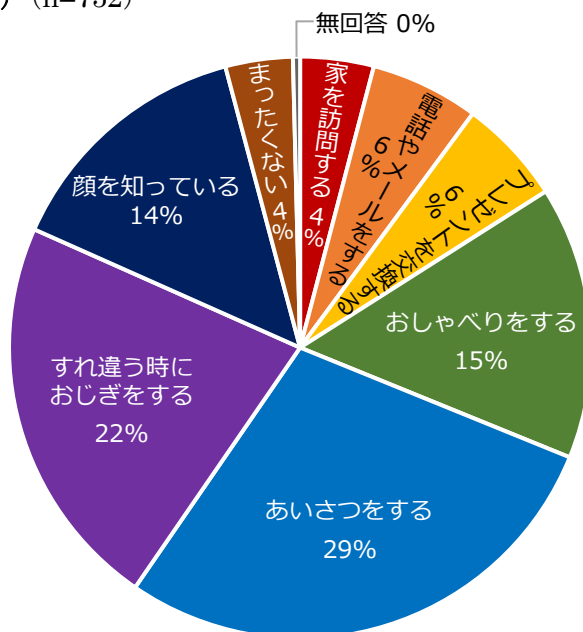
問28. より、外国籍市民の約 9 割が住んでいる地域に愛着を持っていることが分かる。

29. あなたは、あなたの住んでいる地域の日本人を信頼していますか？ (n=752)



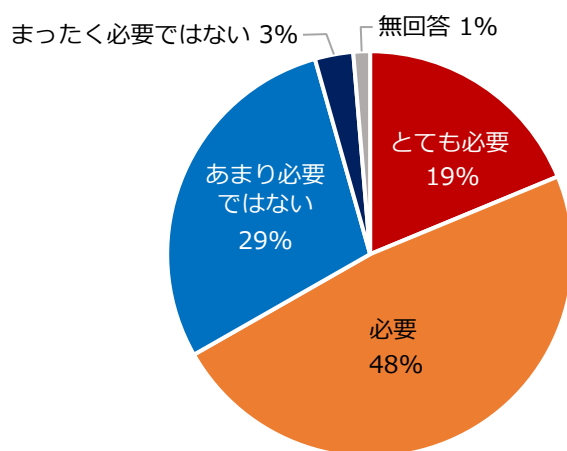
問29. より、外国籍市民の約8割が地域の日本人を信頼している一方で、外国籍市民の約2割は地域の日本人を信頼していないことが分かる。

30. あなたは、あなたの住んでいる地域の日本人とどのような関わりがありますか？ (〇はいくつでも) (n=752)



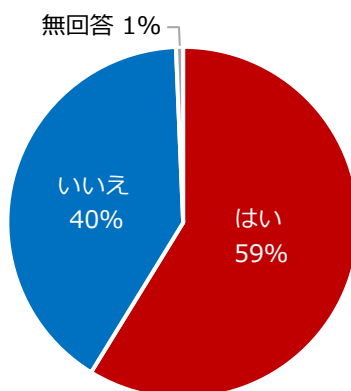
問30. より、地域の日本人との関わりが「まったくない」人は約4%に留まり、全体的に外国籍市民は居住地域の日本人と何らかの関わりがあることが分かる。このうち、「あいさつをする」と「すれ違う時におじぎをする」が約半数を占めていることは、注目すべきである。

31. あなたが生活していくために、同じ地域に住む日本人と関わることは必要ですか？ (n=752)

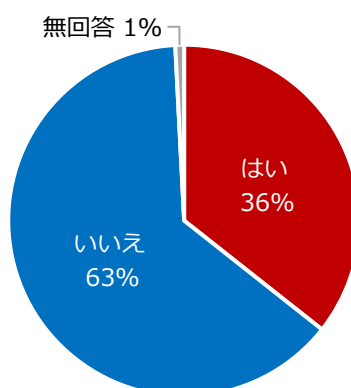


問31. より、外国籍市民の約 7 割が同じ地域に住む日本人と関わる必要性を感じている一方で、外国籍市民の約 3 割は必要性を感じていないことが分かる。前者の割合を高めるためには後者に対し、なぜ同じ地域に住む日本人と関わる必要があるのかを啓発していく必要がある。また、「2021 年調査」では、「今後、日本人とのつきあいを増やしたいと思いますか」という設問で約 9 割が肯定的な回答をしていたことを踏まえると、今回の調査では、消極的な回答が多かったと言える。

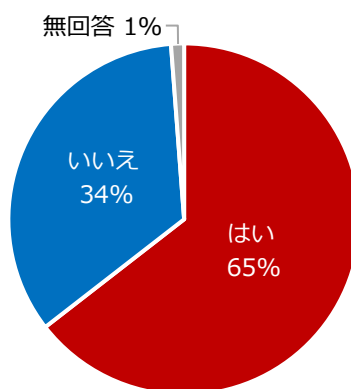
32. あなたの住んでいる地域には、あなたが困った時に相談することができる日本人はいますか？ (n=752)



33. あなたの住んでいる地域には、あなたの家族・親戚はいますか？ (n=752)



34. あなたの住んでいる地域には、外国籍(同じ国籍を含む)の友だち・知り合いはいますか？ (n=752)

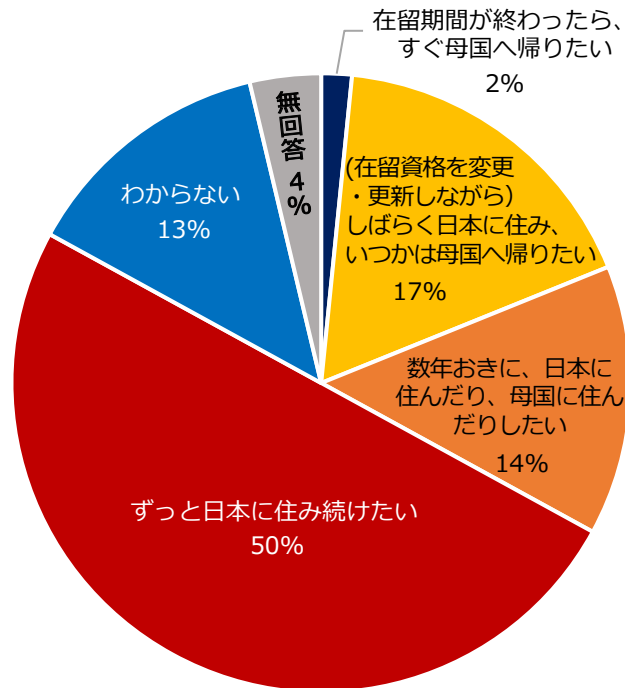


なお、問32.～34. のいずれにおいても「いいえ」と回答し、居住地域に相談できる日本人、家族・親族、外国籍の友だち・知り合い人がいない人は全体の約14%を占めていた。(n=106)



## E.定住について

35. あなたは、これからの生活をどのように考えていますか？(○は1つだけ)(n=752)



問35. は将来の日本への定住と母国への帰国に対する意向を確認する設問である。この調査では、在留資格の種類にかかわらず、外国籍市民の約半数が「ずっと日本に住み続けたい」と回答した。「2021年調査」とは問い方が異なるものの、「2021年調査」における「死ぬまで日本で暮らしたい」(40%)、「働くことができる間は日本で暮らしたい」(22%)という結果と比べると、今回の調査では、定住の意向を示した人がやや少なかったと言える。2022年3月改訂の「四日市市多文化共生推進プラン」では、「今後も四日市市に住み続けたいと回答した人の割合」の目標値を80.0%としているため、定住希望者の割合がさらに高まるような努力が必要である。

しかしながら、「2021年調査」では、「できるだけ早く母国に帰りたい」と回答した人の割合が4%だったのに対し、今回の調査では、「在留期間が終わったらすぐ母国へ帰りたい」と回答した人の割合が約2%だった。このことから、日本での生活を選好する人の割合は全体的にやや高まったと言える。

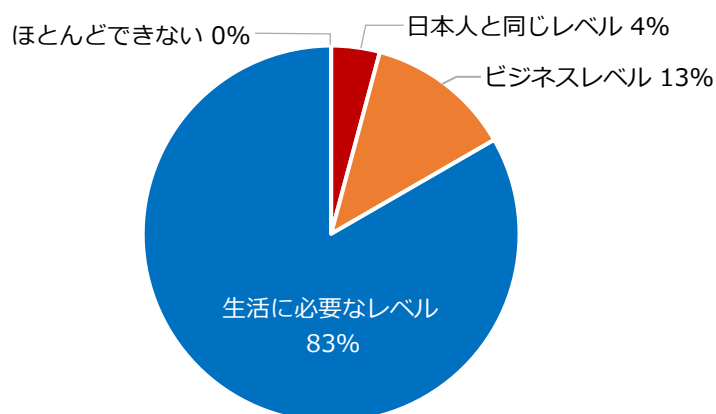
### 第3章 アンケート調査結果(2)

#### 留学生の日本語能力と社会参加に関する調査結果

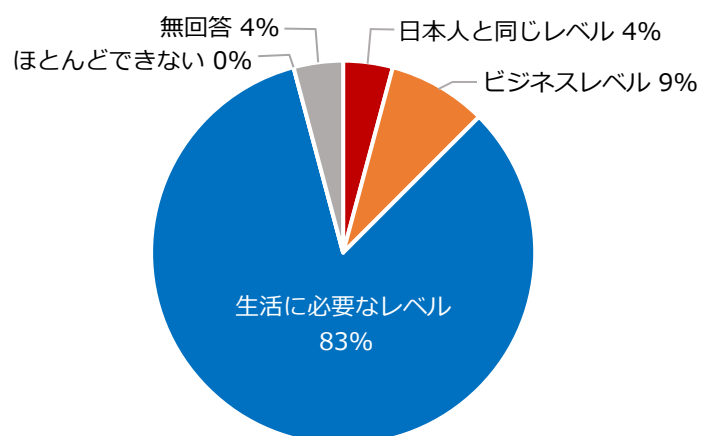
2022年3月改訂の「四日市市多文化共生推進プラン」では、留学生が「多文化共生の地域づくりのキーパーソン」となることを期待し、「大学等と連携して、留学生の自治会加入や地域活動への参画を促すとともに、留学生と地域住民の交流の場を提供」することを挙げている。それを踏まえ、本章では、留学生の日本語能力と社会参加に関する調査結果を示し、考察する。

#### B. 日本語について

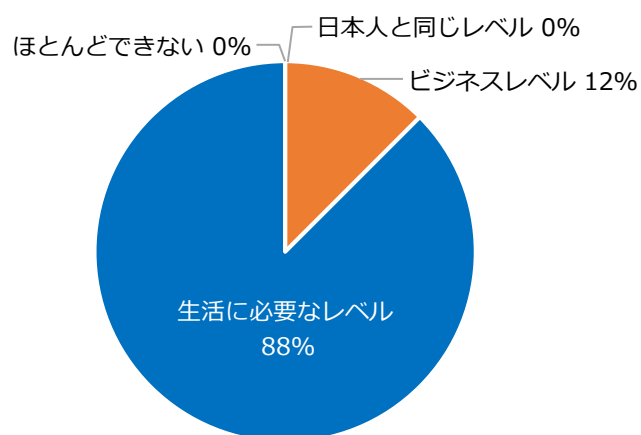
14. あなたは、どのくらい日本語を読むことができますか？ (n=24)



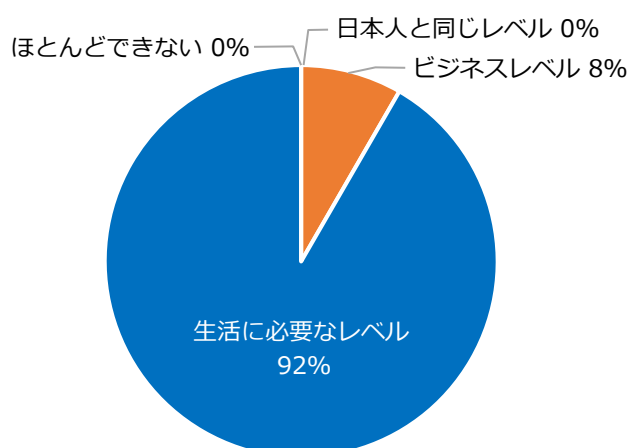
15. あなたは、どのくらい日本語を聞いて理解することができますか？



16. あなたは、どのくらい日本語を話すことができますか？ (n=24)



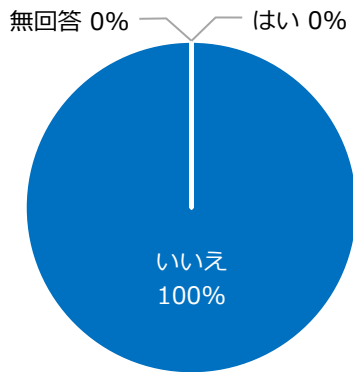
17. あなたは、どのくらい日本語を書くことができますか？ (n=24)



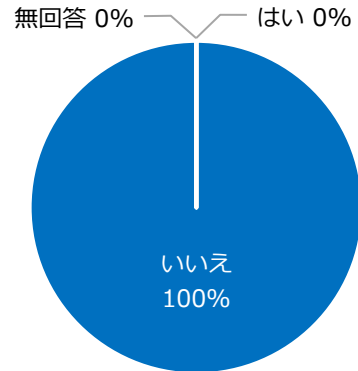
問14.~17.より、留学生の中には、いずれの日本語能力(「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」)においても「ほとんどできない」と回答した人はいなかった。また、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」いずれにおいても、留学生の約 8 割から 9 割が「生活に必要なレベル」を習得できていることが分かる。また、それぞれの能力を高い順に並べると、「読む」>「聞く」>「話す」>「書く」となり、外国籍市民全体の調査結果(「聞く」>「話す」>「読む」>「書く」とは異なる。

C. 地域活動への参加について

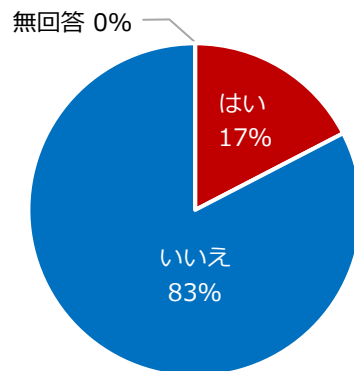
18. あなたは自治会を知っていますか？  
(n=24)



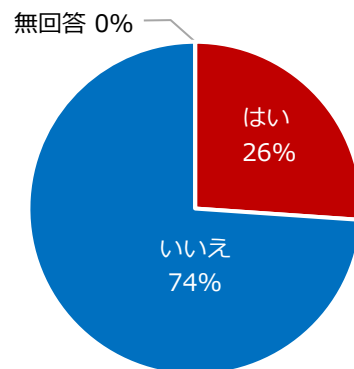
19. あなたは自治会に入っていますか？  
(n=24)



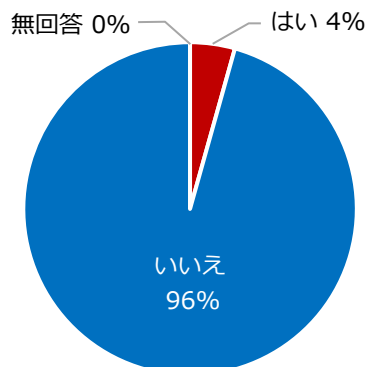
20. あなたは、あなたが住んでいる地域の行事(まつり、スポーツ大会など)に参加していますか  
(参加したことがありますか)？ (n=24)



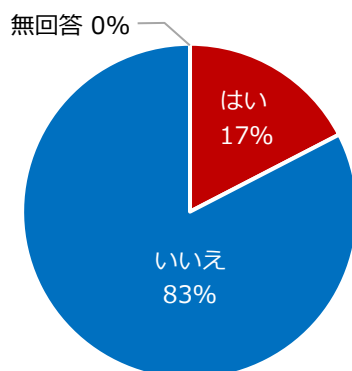
21. あなたは、あなたが住んでいる地域の清掃活動(ごみ拾いなど)に参加していますか  
(参加したことがありますか)？ (n=24)



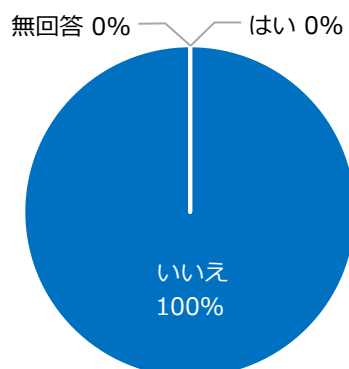
22. あなたは、あなたが住んでいる地域の防犯・交通安全活動(子どもの見守り、防犯パトロールなど)に参加していますか(参加したことがありますか)？(n=24)



23. あなたは、あなたが住んでいる地域の防災訓練に参加していますか(参加したことがありますか)？(n=24)

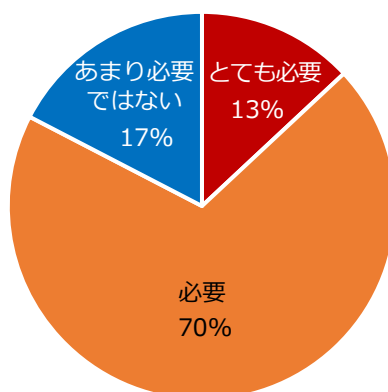


24. あなたは、あなたが住んでいる地域の地区市民センター、四日市市多文化共生サロン(四郷地区の場合)などの活動(講座など)に参加していますか(参加したことがありますか)？(n=24)



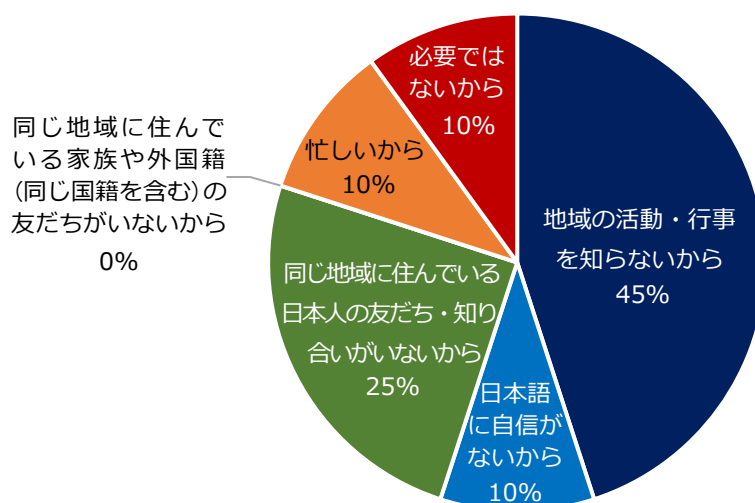
問18.～19. より、留学生は自治会を全く知らず、加入もしていないことから政策目標との乖離が見られる。また、問20.～24. について外国籍市民全体の調査結果と比べても、留学生の地域の活動・行事への参加率は低いことが分かる。

25. あなたが生活していくために、地域の活動・行事に参加することは必要ですか？ (n=24)



しかしながら、問25. より、留学生の約 8 割が地域の活動・行事に参加する必要性を感じている。この割合は、外国籍市民全体の調査結果より約 3 割高い。

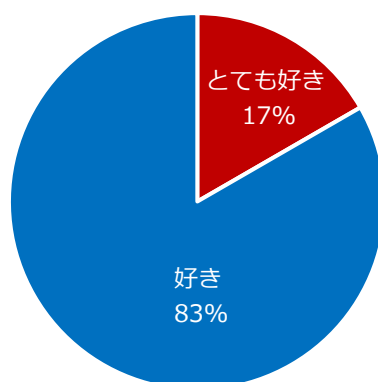
26. 【20.～24. がすべて「(2)いいえ」の人だけに聞きます】参加しない理由は何ですか？ (〇はいくつでも) (n=17)



問26. より、一般的に留学生はアルバイトなどで「忙しい」と認識されているが、地域の活動・行事への参加において、忙しさはそれほど大きな障壁になっていないことが分かる。また、地域の活

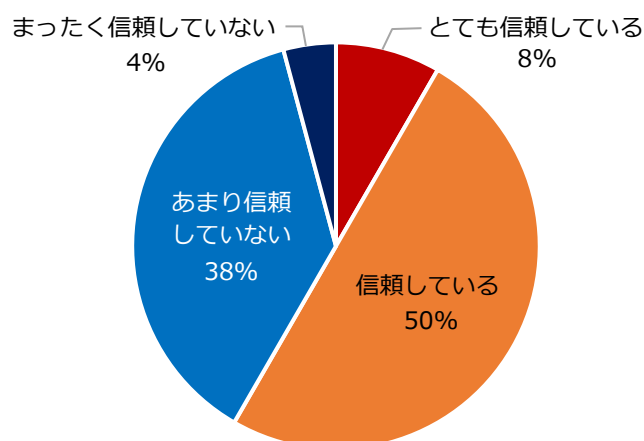
動・行事への参加には、同じ地域に外国籍の友だち・知り合いがいるかどうかは関係ないと言える。それよりも同じ地域に日本人の友だち・知り合いがいないことが地域の活動・行事への参加の妨げとなっている。さらに、「地域の活動・行事を知らないから」(約45%)という結果から、地域の活動・行事を知っているかどうか参加率に大きく影響していると考えられる。

28. あなたは、あなたの住んでいる地域が好きですか？ (n=24)



問28. では、留学生全員が居住地について「とても好き」あるいは「好き」と回答していることから、留学生は、居住地に対する愛着が非常に強いことが分かる。

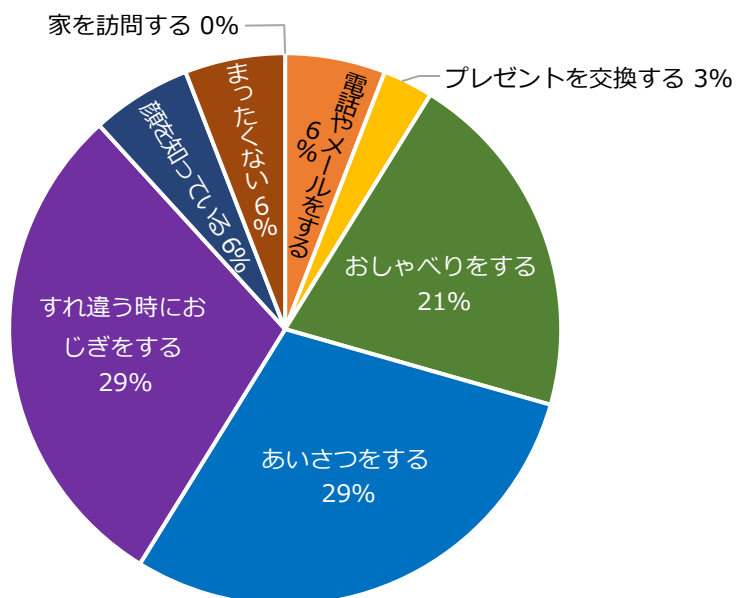
29. あなたは、あなたの住んでいる地域の日本人を信頼していますか？ (n=24)



一方で、問29. より、留学生の約 4 割が地域の日本人を信頼していないことが分かる。また、問28.～問29. より、留学生の地域に対する愛着と地域の日本人に対する信頼の関連性は低い。

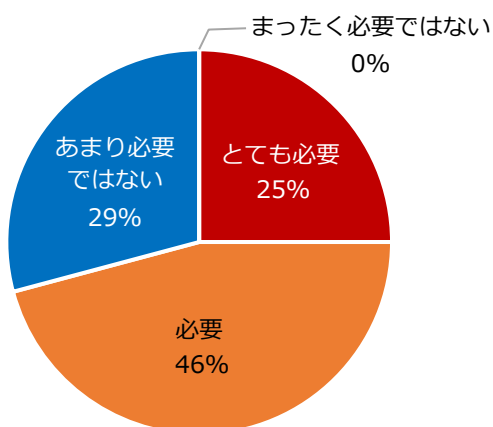


30. あなたは、あなたの住んでいる地域の日本人とどのような関わりがありますか？  
 (〇はいくつでも) (n=24)



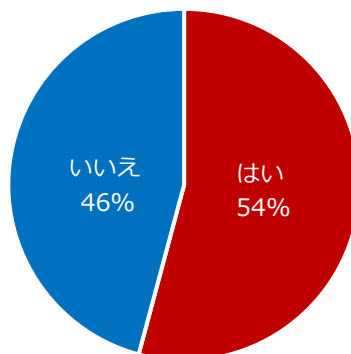
問30. より、留学生の約 9 割が地域の日本人と何らかの関わりを持っていることが分かる。中でも「おしゃべりをする」(21%)については、外国籍市民全体の割合(15%)よりも高い。

31. あなたが生活していくために、同じ地域に住む日本人と関わることは必要ですか？ (n=24)



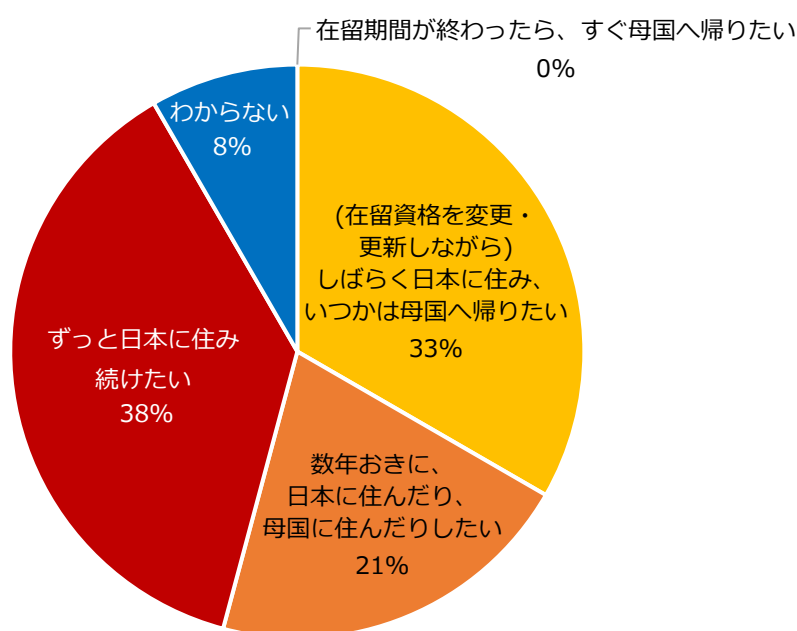
問31. より、同じ地域に住む日本人と関わる必要性に関する意識については、留学生と外国籍市民全体の間で大きな差は見られなかった。

32. あなたの住んでいる地域には、あなたが困った時に相談することができる日本人はいますか？(n=24)



**E.定住について**

35. あなたは、これからの生活をどのように考えていますか？(○は1つだけ)(n=24)



問35. より、留学生の中には、「在留期間が終わったら、すぐ母国へ帰りたい」と回答した者が一人もいなかった。「ずっと日本に住み続けたい」あるいは「(在留資格を変更・更新しながら)しばらく日本に住み、いつかは母国へ帰りたい」と回答した留学生の割合(71%)は、外国籍市民全体の割合(67%)よりもやや高い。全体的に、留学生は日本に住むことに対し、肯定的な考えをしていることがうかがえる。

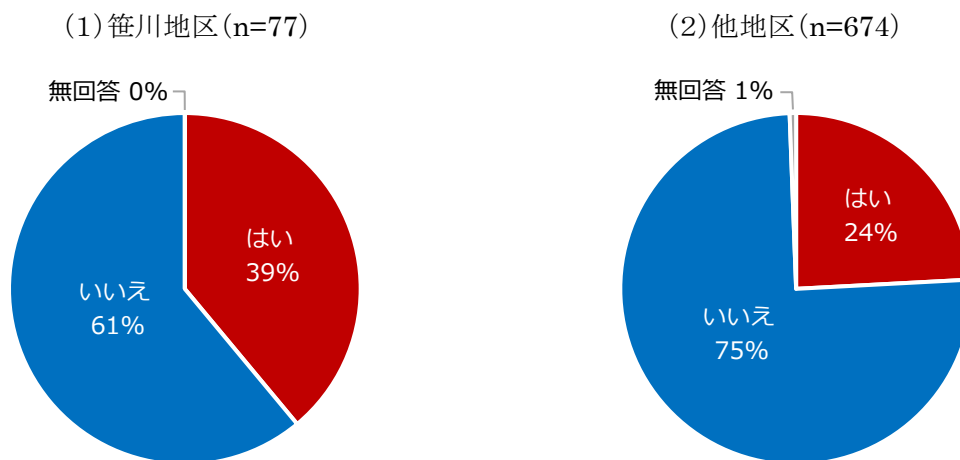
## 第4章 アンケート調査結果(3)

### 外国籍市民の社会参加に関する笹川地区と他地区の比較

本章では、外国籍市民の地域の日本語教室と地域の活動・行事への参加について、笹川地区と他地区(笹川地区以外の地区)の調査結果を比較し、考察する。

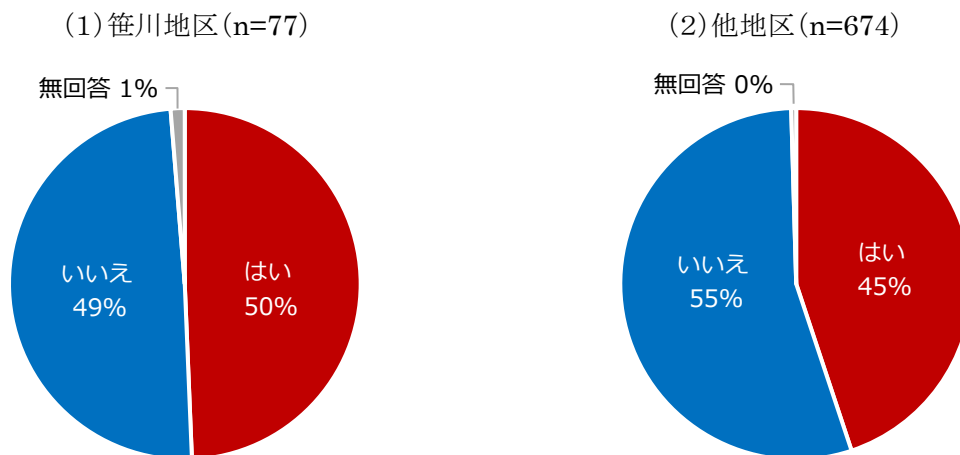
#### B. 日本語について

13. あなたは、地域の日本語教室に参加していますか(参加したことがありますか)？



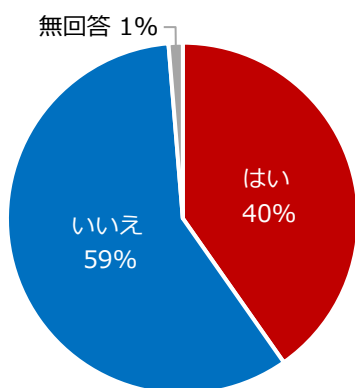
#### C. 地域活動への参加について

18. あなたは自治会を知っていますか？

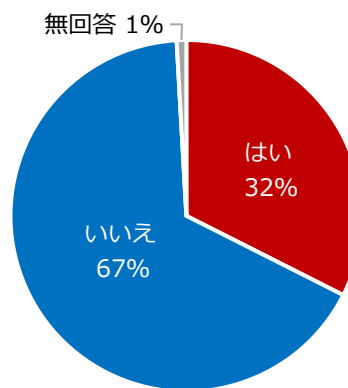


19. あなたは自治会に入っていますか？

(1) 笹川地区 (n=77)

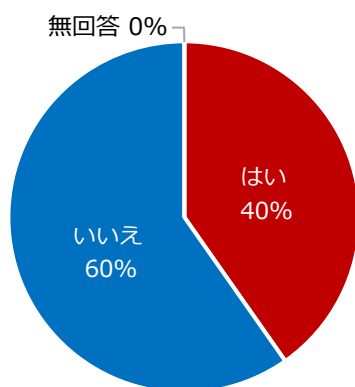


(2) 他地区 (n=674)

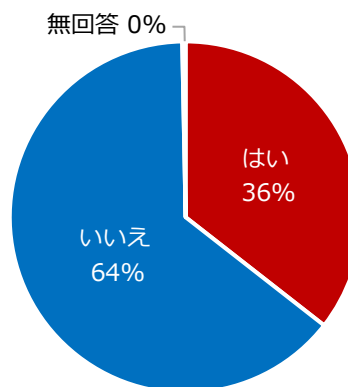


20. あなたは、あなたが住んでいる地域の行事(まつり、スポーツ大会など)に参加していますか  
(参加したことがありますか)？

(1) 笹川地区 (n=77)

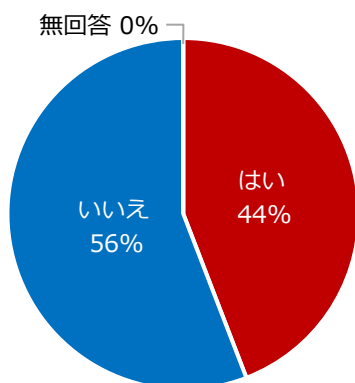


(2) 他地区 (n=674)

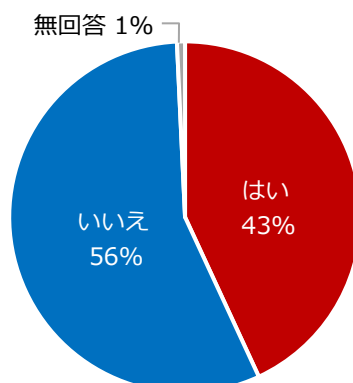


21. あなたは、あなたが住んでいる地域の清掃活動(ごみ拾いなど)に参加していますか(参加したことがありますか)?

(1) 笹川地区(n=77)

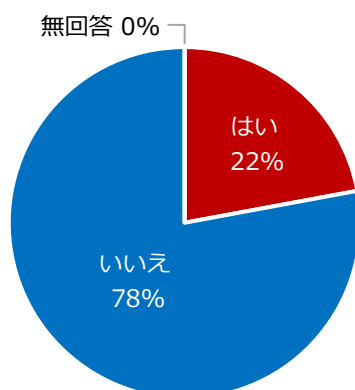


(2) 他地区(n=674)

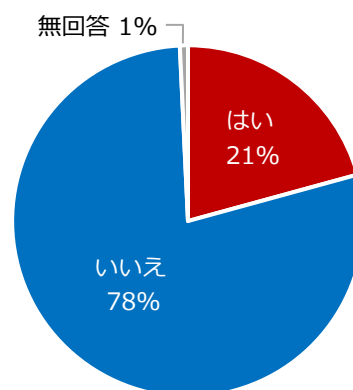


22. あなたは、あなたが住んでいる地域の防犯・交通安全活動(子どもの見守り、防犯パトロールなど)に参加していますか(参加したことがありますか)?

(1) 笹川地区(n=77)

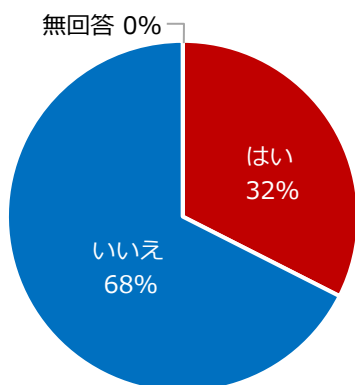


(2) 他地区(n=674)

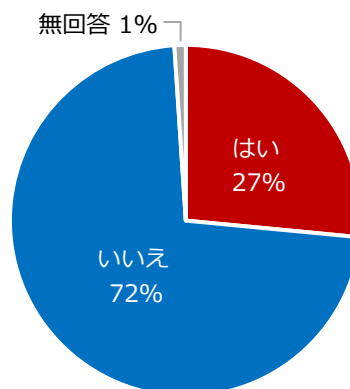


23. あなたは、あなたが住んでいる地域の防災訓練に参加していますか（参加したことがありますか）？

(1) 笹川地区 (n=77)

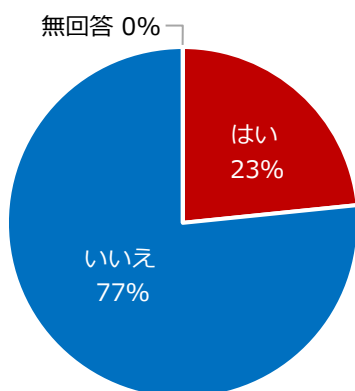


(2) 他地区 (n=674)

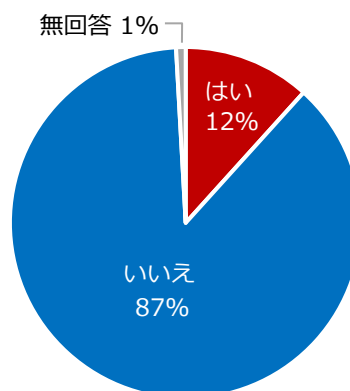


24. あなたは、あなたが住んでいる地域の地区市民センター、四日市市多文化共生サロン（四郷地区の場合）などの活動（講座など）に参加していますか（参加したことがありますか）？

(1) 笹川地区 (n=77)



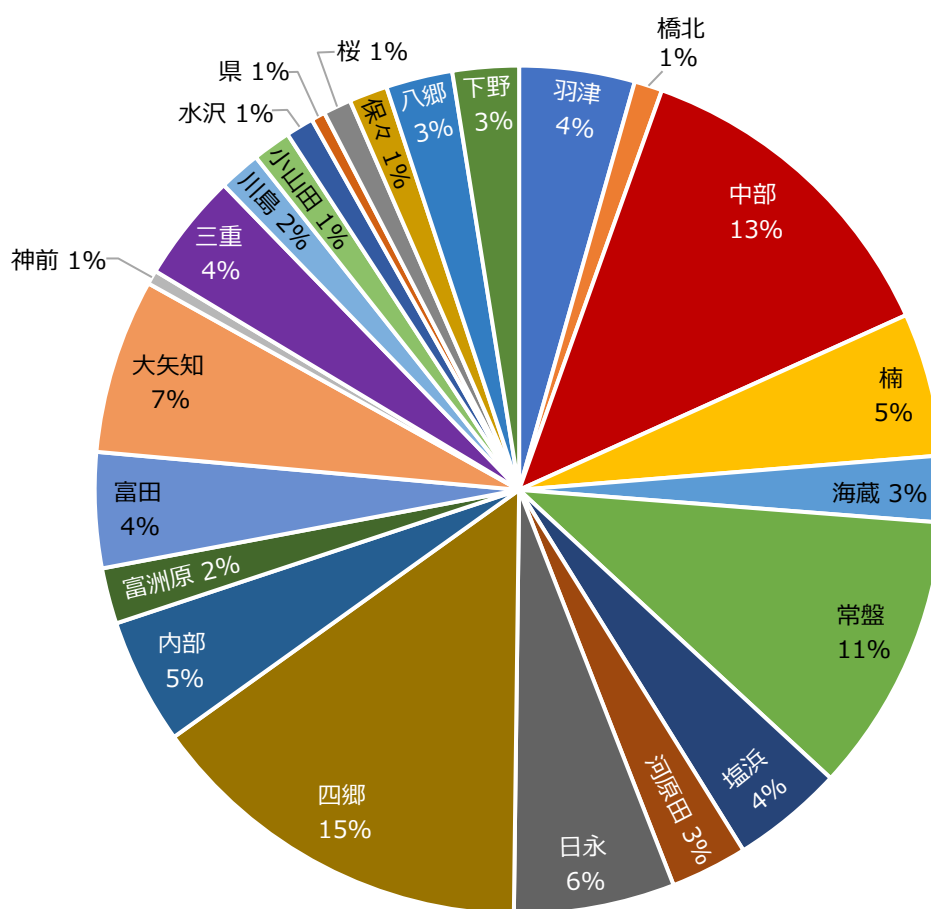
(2) 他地区 (n=674)



以上より、地域の日本語教室と地域の活動・行事への参加について、笹川地区と他地区の調査結果を比べると、まず、地域の日本語教室への参加率では、笹川地区が他地区よりも15%ほど高かった。また、地区センターなどの活動への参加率は、笹川地区が他地区の約2倍となった。しかしながら、自治会の認知度と加入率、さらに地域の行事、清掃活動、防犯・交通安全活動、防災訓練などその他の地域の活動・行事への参加率については、笹川地区と他地区の間に大きな差は見られなかった。

## 第5章 アンケート調査結果(4) 外国籍市民の社会参加に関する地区別の調査結果

参考までに、本調査に回答した外国籍市民の地区別の割合は、次の通りである。回答者が一人もない地区はなかった。本章では、外国籍市民の地域の日本語教室と地域の活動・行事への参加率を地区別に示す。

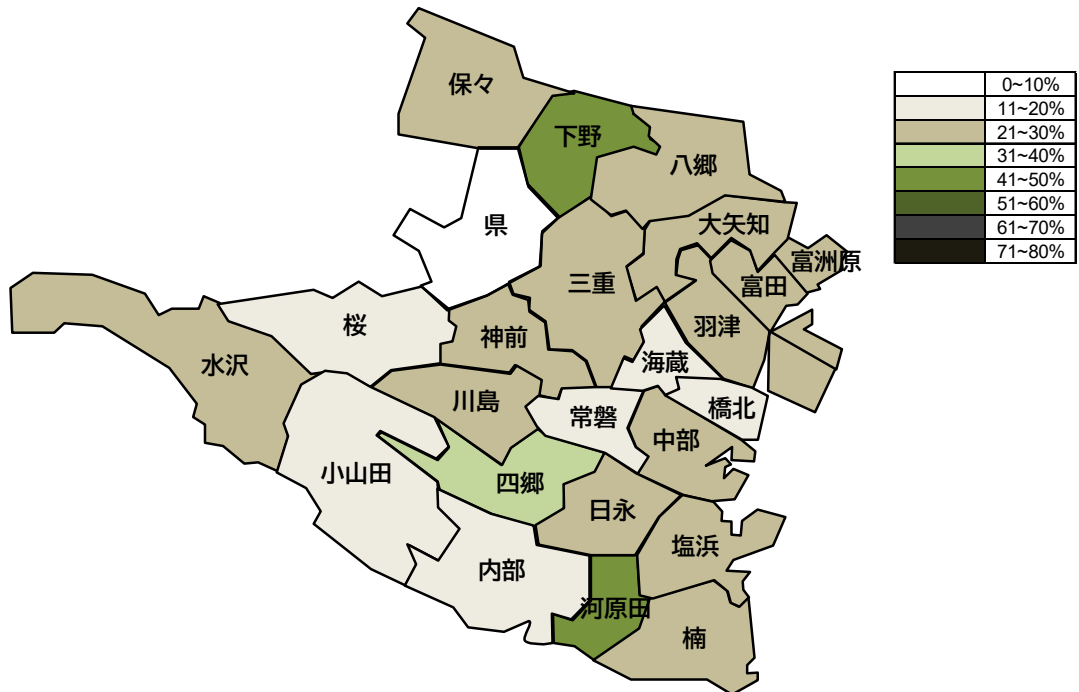


n=751



B. 日本語について

13. あなたは、地域の日本語教室に参加していますか(参加したことがありますか)？

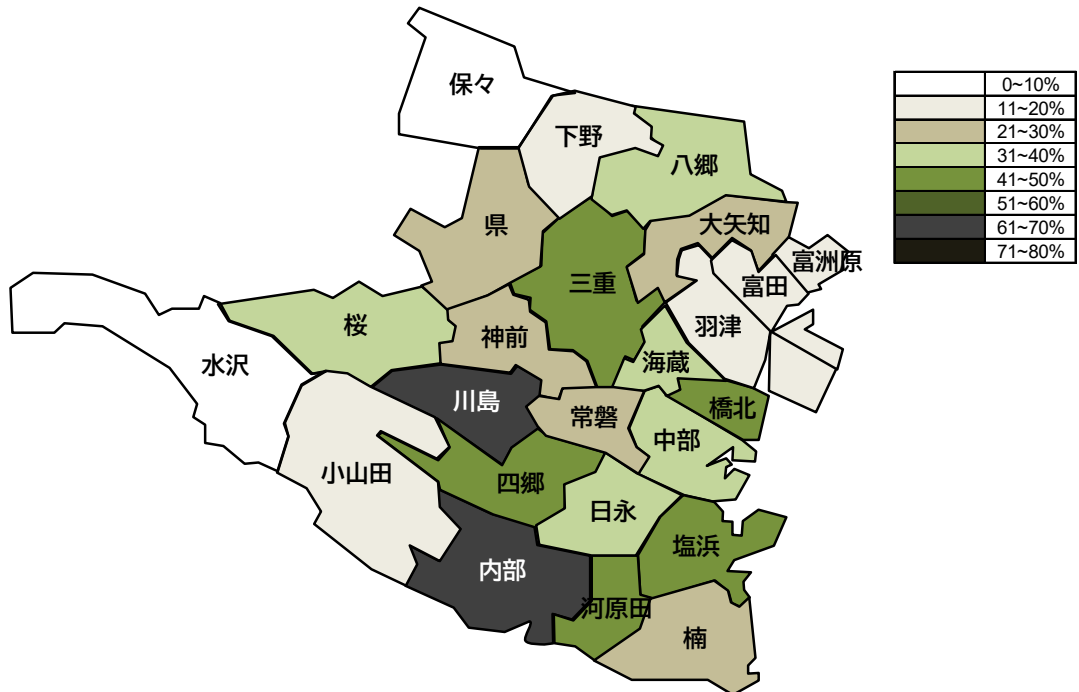


(n=751)

下野地区が 42%と最も高く、次いで河原田地区(41%)、四郷地区(35%)の順で高かった。

C. 地域活動への参加について

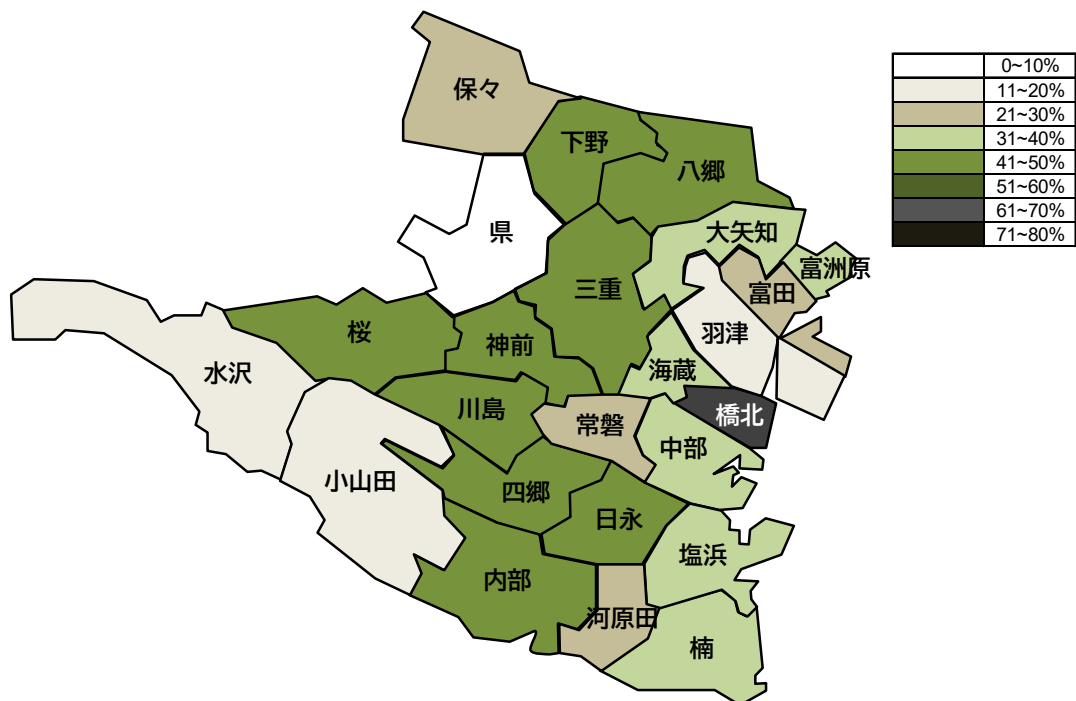
19. あなたは自治会に入っていますか？



(n=751)

川島地区が 67%と最も高く、次いで内部地区(64%)、橋北地区(50%)の順で高かった。

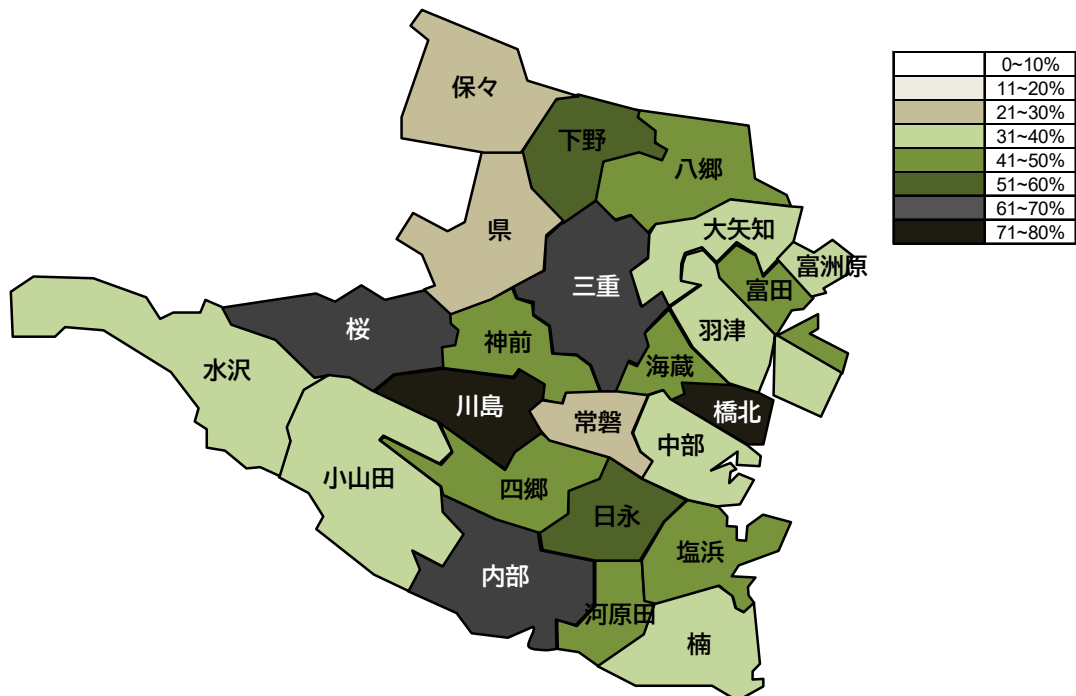
20. あなたは、あなたが住んでいる地域の行事(まつり、スポーツ大会など)に参加していますか  
(参加したことがありますか)？



(n=751)

橋北地区が 63%と最も高く、次いで桜地区(50%)と神前地区(50%)が高かった。

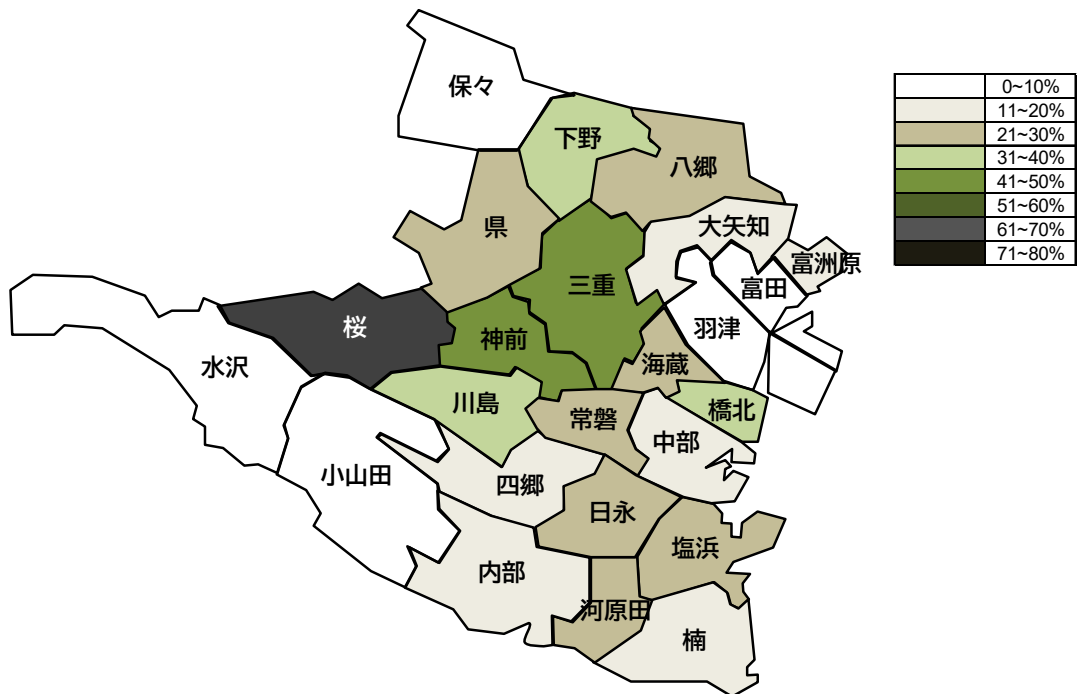
21. あなたは、あなたが住んでいる地域の清掃活動(ごみ拾いなど)に参加していますか  
(参加したことがありますか) ?



(n=751)

橋北地区と川島地区がともに 75%と最も高く、次いで三重地区(68%)、桜地区(63%)の順で高かった。

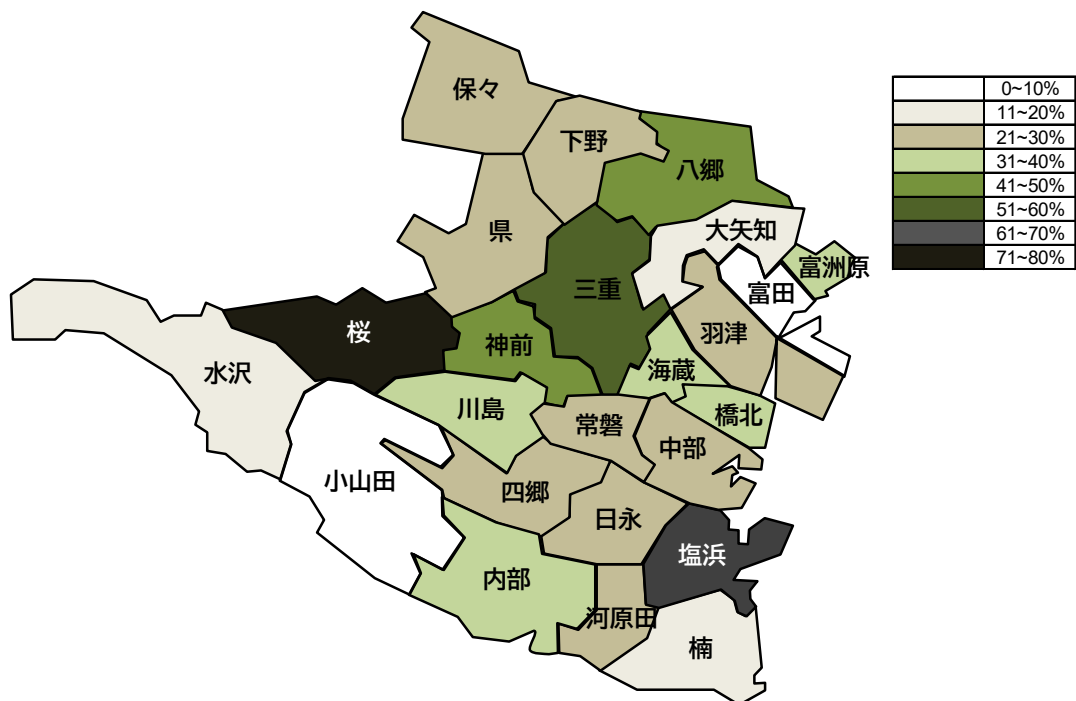
22. あなたは、あなたが住んでいる地域の防犯・交通安全活動（子どもの見守り、防犯パトロールなど）に参加していますか（参加したことがありますか）？



(n=751)

桜地区が 63%と最も高く、次いで神前地区(50%)、三重地区(45%)の順で高かった。

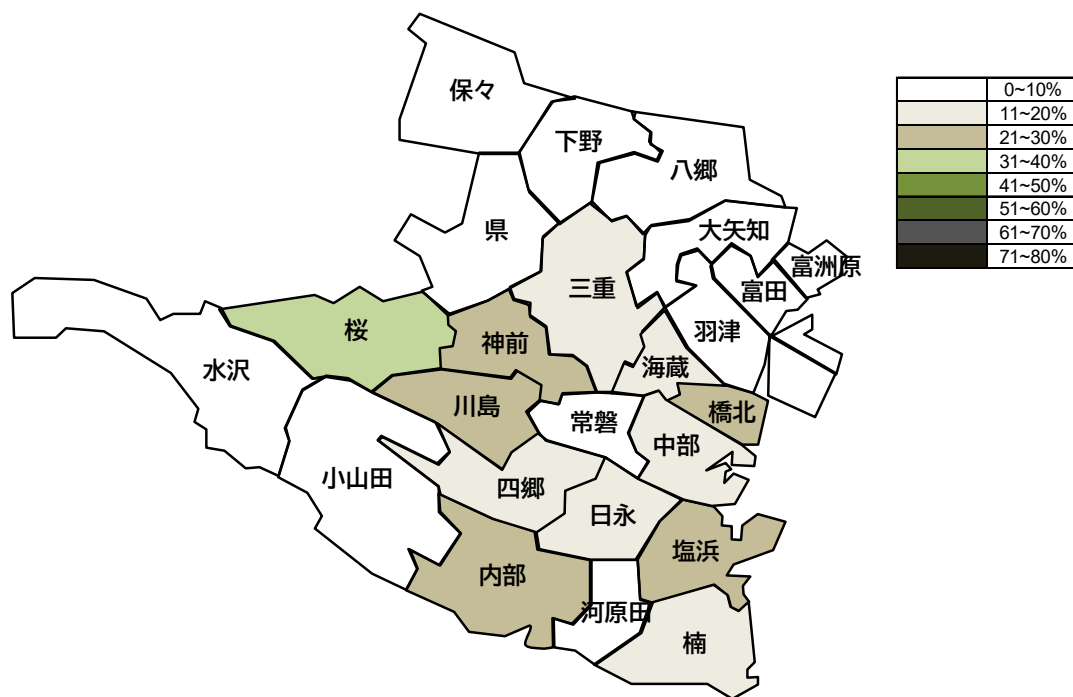
23. あなたは、あなたが住んでいる地域の防災訓練に参加していますか（参加したことがありますか）？



(n=751)

桜地区が 75%と最も高く、次いで塩浜地区(69%)、三重地区(52%)の順で高かった。

24. あなたは、あなたが住んでいる地域の地区市民センター、四日市市多文化共生サロン（四郷地区の場合）などの活動（講座など）に参加していますか（参加したことがありますか）？



(n=751)

桜地区が 38%と最も高く、次いで橋北地区(25%)、神前地区(25%)、川島地区(25%)が高かった。

## おわりに

今回の調査では、調査対象者の協力もあり、集まったサンプルの年齢、国籍、性別、在留資格などの属性に大きな偏りは見られなかった。また、有効回答数、回収率いずれにおいても必要な数を確保することができた。以上より、本調査結果は、一定程度、信憑性のあるものと言える。

ここでは、将来的な「四日市市多文化共生推進プラン」の改訂に向け、まずは2022年3月改訂の「四日市市多文化共生推進プラン」で掲げた目標を達成するために、これまで提示してきた調査結果をもとに政策提言を行う。

### 1) 外国籍市民に地域の活動・行事に関する情報を定期的に提供し、参加を促す

調査結果より、地域の行事、清掃活動など、いずれの地域の活動・行事においても外国籍市民の半数以上が参加していないことが明らかになった。また、外国籍市民の約半数が地域の行事に参加する必要性を感じておらず、約3分の1がそもそも地域の活動・行事を知らないことが分かった。これらのことから、地域の行事への参加率60.0%という目標を達成するためには、外国籍市民に地域の活動・行事に関する情報を定期的に提供し、参加する意義を啓発し続け、外国籍市民の地域の活動・行事に対する認知度と参加意識を高めるための努力が必要である。

### 2) 外国籍市民と日本人双方に、居住地域レベルで日常的な関わりを増やすよう啓発する

調査結果より、全体的に、外国籍市民は居住地域での生活に対する満足度が高く、居住地域に対する愛着も強いことが分かった。その一方で、外国籍市民全体の約2割、留学生においては約4割が地域の日本人を信頼していないことも明らかになった。また、外国籍市民の約3割が日本人との関わりを必要と感じていなかった(留学生も同様)。そこで、相互の不信感を払拭するためにも、居住地域で外国籍市民と日本人が関わり合うことの必要性を両者に啓発し、外国籍市民と地域の日本人の日常的な関わりをさらに増やしていくよう働きかける必要がある。その際、外国籍市民の約半数がすでに地域の日本人と挨拶や会釈を交わしていることを手掛かりに、両者が関わり合うことのハードルはそれほど高くないことを説明し、両者の接点の増加を図ることが重要である。

### 3) 留学生が地域の活動・行事に参加しやすい環境を居住地域で整備する

今回の調査において政策との乖離が著しく見られたのが留学生である。2022年3月改訂の「四日市市多文化共生推進プラン」では、留学生を「多文化共生の地域づくりのキーパーソン」と位置付けている。調査結果より、留学生の約8割から9割が「生活に必要なレベル」の日本語ができ、地域に対する愛着が非常に強く、将来的な定住についても肯定的な考えを示している者が多いことが分かった。これらのことから、留学生には、(多文化共生の)地域づくりの担い手となる素地が十分にあると言える。しかしながら、外国籍市民全体の調査結果と比べると、留学生の社会参加率は全体的に低かった。その主な要因は、そもそも自治会や地域の活動・行事を知らないことである。



この課題を解消するためには、留学生が通う学校や自治会と連携し、留学生が自治会や地域の活動・行事に関する情報を得ることができるように働きかける必要がある。

また、地域の活動・行事に参加しない理由として、回答した留学生の約4分の1が「同じ地域に住んでいる日本人の友だち・知り合いがいない」ことを挙げた。一方で、留学生は、外国籍市民全体よりも地域の日本人と「おしゃべりをする」人が多いことが分かった。これを手掛かりに、まずは、留学生が何らかの関わりを持っている地域の日本人に留学生と地域の紐帯となってもらい、留学生が地域の活動・行事へ参加しやすい環境を居住地域レベルで整備していくことが必要である。

#### 4) 日本語が「ほとんどできない」外国籍市民に地域の日本語教室への参加を促す

調査結果より、日本語能力は、地域の活動・行事への参加を著しく妨げる要因とはなっていないことが明らかになった。しかしながら、外国籍市民の中では日本語能力に大きな差があり、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」いずれの能力においても約5分の1が「日本人と同じレベル」であると回答する中、特に「書く」については、外国籍市民の約4分の1が「ほとんどできない」と回答した。

市民の多国籍化が進む中、地域の様々な主体があらゆる外国語に対応することは、今後ますます難しくなっていくと思われる。そのような中で、すべての外国籍市民が地域に関する情報にアクセスし、地域の活動・行事に自由に参加することができ、居住地域で外国籍市民と日本人が信頼関係を築いていくためにも、外国籍市民が日本語を学び、日本語でも意思疎通を図ることができるという可能性を拓げられるように、環境を整備していくことが重要である。調査結果からは、日本語能力の低い人の方が地域の日本語教室への参加率が著しく高いということは確認されなかったが、日本語が「ほとんどできない」外国籍市民にこそ、地域の日本語教室への参加を継続的に促すなどして、日本語を習得するという選択肢を持つことができるように働きかける必要があると思われる。

#### 5) 外国籍市民の包摂に向け、地域における多様な主体との連携を強化する

ここまで4つの政策を提言したが、今回の調査結果から浮かび上がったすべての課題解決に、四日市市多文化共生推進室だけで取り組むことは困難だと考える。今回の調査結果を自治体のみならず、各地区の自治会、地域の日本語教室、留学生を受け入れている学校、政治家なども共有して課題に対して共通認識を持ち、それぞれのアプローチで課題解決に取り組み、連携を強化しながら、四日市市の多文化共生の発展に向けて相互補完的な関係を築くことが重要である。

新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の緩和と少子高齢化・労働力不足の深刻化が相まって、どんなに力を入れても期待したほどの政策効果が表れにくいほど、今後も市内の外国籍市民数は増加の一途を辿ると思われる。そうした状況ではあるものの、あるいは、そうした状況であるからこそ、以上の5つの政策提言を今後の四日市市の施策・取り組みに活かしていただきたい。また、本研究の調査項目については、将来にわたって定点観測を続けながら政策効果を検証し、外国籍市民が地域の構成員の一員として社会に参加することができる環境を追求していただきたい。

# アンケート調査票

質問は、35問です（裏面もあります）。あなた自身の答えの番号に○をつけてください。  
プライバシーは守られますので、安心して教えてください。

## A. 基本情報

1. あなたは何歳ですか？

- (1) 18～25歳 (2) 26～30歳 (3) 31～35歳 (4) 36～40歳  
(5) 41～45歳 (6) 46～50歳 (7) 51～60歳 (8) 61歳以上

2. あなたの国籍はどれですか？

- (1) ブラジル (2) ベトナム (3) 中国 (4) 韓国  
(5) フィリピン (6) ネパール (7) インドネシア (8) その他 ( )

3. あなたの性別はどれですか？

- (1) 男 (2) 女 (3) その他

4. あなたの在留資格（VISA）はどれですか？

- (1) 永住者 (2) 定住者 (3) 特別永住者  
(4) 留学 (5) 技術・人文知識・国際業務 (6) 家族滞在  
(7) 技能実習 (8) 特定技能 (9) 日本人の配偶者等  
(10) 永住者の配偶者等 (11) 特定活動 (12) 技能  
(13) 介護 (14) その他 ( )

5. あなたは一人で生活していますか？

- (1) はい (2) いいえ

6. あなたには日本で教育を受けている子ども（0～18歳）はいますか？

- (1) はい (2) いいえ

7. あなたはどのくらい四日市市で生活していますか？

- (1) 1年未満 (2) 1年以上3年未満 (3) 3年以上5年未満  
(4) 5年以上10年未満 (5) 10年以上

8. あなたが住んでいる家はどれですか？

- (1) 持ち家（一戸建て） (2) 持ち家（分譲マンションなど） (3) UR賃貸住宅  
(4) 公営住宅（県営・市営） (5) 借家・民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）  
(6) 社宅・寮（会社・学校のアパートなど）

9. あなたは働いていますか？（パート・アルバイトを含む）

- (1) はい (2) いいえ

10. 【働いている人だけに聞きます】あなたの会社での立場はどれですか？
- (1) 自営業・正社員 (2) 契約社員・派遣社員 (3) パート・アルバイト
11. 【働いている人だけに聞きます】あなたの休みの日はいつですか？
- (1) 土曜日・日曜日 (2) 土曜日・日曜日以外 (3) 決まっていない
12. 【働いている人だけに聞きます】あなたは月に給料をどのくらいもらいますか？
- (1) 0～10万円 (2) 11万～20万円 (3) 21万～30万円  
 (4) 31万～40万円 (5) 41万円以上

## B. 日本語について

13. あなたは、地域の日本語教室に参加していますか（参加したことがありますか）？
- (1) はい (2) いいえ
14. あなたは、どのくらい日本語を読むことができますか？
- (1) 日本人と同じレベル (2) ビジネスレベル (3) 生活に必要なレベル (4) ほとんどできない
15. あなたは、どのくらい日本語を聞いて理解することができますか？
- (1) 日本人と同じレベル (2) ビジネスレベル (3) 生活に必要なレベル (4) ほとんどできない
16. あなたは、どのくらい日本語を話すことができますか？
- (1) 日本人と同じレベル (2) ビジネスレベル (3) 生活に必要なレベル (4) ほとんどできない
17. あなたは、どのくらい日本語を書くことができますか？
- (1) 日本人と同じレベル (2) ビジネスレベル (3) 生活に必要なレベル (4) ほとんどできない

## C. 地域活動への参加について

18. あなたは自治会を知っていますか？
- (1) はい (2) いいえ
19. あなたは自治会に入っていますか？
- (1) はい (2) いいえ
20. あなたは、あなたが住んでいる地域の行事（まつり、スポーツ大会など）に参加していますか（参加したことがありますか）？
- (1) はい (2) いいえ

21. あなたは、あなたが住んでいる地域の清掃活動（ごみ拾いなど）に参加していますか（参加したことがありますか）？  
 (1) はい (2) いいえ
22. あなたは、あなたが住んでいる地域の防犯・交通安全活動（子どもの見守り、防犯パトロールなど）に参加していますか（参加したことがありますか）？  
 (1) はい (2) いいえ
23. あなたは、あなたが住んでいる地域の防災訓練に参加していますか（参加したことがありますか）？  
 (1) はい (2) いいえ
24. あなたは、あなたが住んでいる地域の地区市民センター、四日市市多文化共生サロン（西郷地区の場合）などの活動（講座など）に参加していますか（参加したことがありますか）？  
 (1) はい (2) いいえ
25. あなたが生活していくために、地域の活動・行事に参加することは必要ですか？  
 (1) とても必要 (2) 必要 (3) あまり必要ではない (4) まったく必要ではない
26. 【20. ～24. がすべて「(2) いいえ」の人だけに聞きます】参加しない理由はどれですか？（〇はいくつでも）  
 (1) 地域の活動・行事を知らないから  
 (2) 日本語に自信がないから  
 (3) 同じ地域に住んでいる日本人の友だち・知り合いがないから  
 (4) 同じ地域に住んでいる家族や外国籍（同じ国籍を含む）の友だちがないから  
 (5) 忙しいから  
 (6) 必要ではないから
- D. 住んでいる地域・人との関係について
27. あなたは、あなたの住んでいる地域での生活に満足していますか？  
 (1) とても満足している (2) 満足している  
 (3) 満足していない (4) まったく満足していない
28. あなたは、あなたの住んでいる地域が好きですか？  
 (1) とても好き (2) 好き (3) あまり好きではない (4) まったく好きではない
29. あなたは、あなたの住んでいる地域の日本人を信頼していますか？  
 (1) とても信頼している (2) 信頼している  
 (3) あまり信頼していない (4) まったく信頼していない

30. あなたは、あなたの住んでいる地域の日本人とどのような関わりがありますか？(○はいくつでも)

(1) 家を訪問する (2) 電話やメールをする (3) プレゼントを交換する  
(4) おしゃべりをする (5) あいさつをする (6) すれ違う時におじぎをする  
(7) 顔を知っている (8) まったくない

31. あなたが生活していくために、同じ地域に住む日本人と関わることは必要ですか？

(1) とても必要 (2) 必要 (3) あまり必要ではない (4) まったく必要ではない

32. あなたの住んでいる地域には、あなたが困った時に相談することができる日本人はいますか？

(1) はい (2) いいえ

33. あなたの住んでいる地域には、あなたの家族・親戚はいますか？

(1) はい (2) いいえ

34. あなたの住んでいる地域には、外国籍(同じ国籍を含む)の友だち・知り合いはいますか？

(1) はい (2) いいえ

#### E. 定住について

35. あなたは、これからの生活をどのように考えていますか？(○は1つだけ)

- (1) 在留期間が終わったら、すぐ母国へ帰りたい  
(2) (在留資格を変更・更新しながら)しばらく日本に住み、いつかは母国へ帰りたい  
(3) 数年おきに、日本に住んだり、母国に住んだりしたい  
(4) ずっと日本に住み続けたい  
(5) わからない

答え忘れがないか、ご確認ください。

ご協力いただき、ありがとうございました。

## 謝辞

本研究は、四日市市の様々な方々のお力添えをいただき、実現したものである。ここに、お世話になった方々のお名前を記載させていただき、謝意を表したい。

まず、加藤扶久美氏(学校法人みえ大橋学園ユマニテクライフデザイン専門学校長)には、ご多忙のところ、ご厚意で、アンケート調査票の「やさしい日本語」についてご助言いただいた。また、加藤康孝氏(四日市市多文化共生推進室長)と山田直子氏(四日市市多文化共生推進室)には、本研究を遂行するにあたり、データ抽出、資料の提供など、多岐にわたって多大なるご尽力を賜った。さらに、河合英孝氏(四日市市政策推進課主幹)には、研究計画を立てるにあたって幾度も本学三重サテライトへ足を運んでいただき、四日市市と本学の意向の擦り合わせを行い、全体的な調整に大変なご尽力を賜った。以上の皆様に厚く御礼申し上げたい。最後に、ここでお一人おひとりのお名前を挙げることは叶わないが、お忙しいところ、本研究にご協力いただいた四日市市在住の外国籍市民の皆様に、心からの感謝の気持ちをお伝えしたい。

本研究の成果が今後の四日市市における多文化共生の発展の一助となれば幸甚である。

東京大学地域未来社会連携研究機構三重サテライト 特任助教 土田千愛

2024年3月発行

四日市市受託研究

『四日市市における外国籍市民の  
社会参加に関する研究報告書』

編集・発行 東京大学地域未来社会連携研究機構  
東京都目黒区駒場 3-8-1

印刷 株式会社ヤスキ  
東京都千代田区神田佐久間町 4-1  
ベラカーサ秋葉原2F